(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2015-159831
(P2015-159831A)
(43)公開日　平成27年9月7日(2015.9.7)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A63F 7/02	(2006.01)	A63F	7/02	304D	2C088

審査請求 未請求　請求項の数 1　ＯＬ　（全 31 頁）

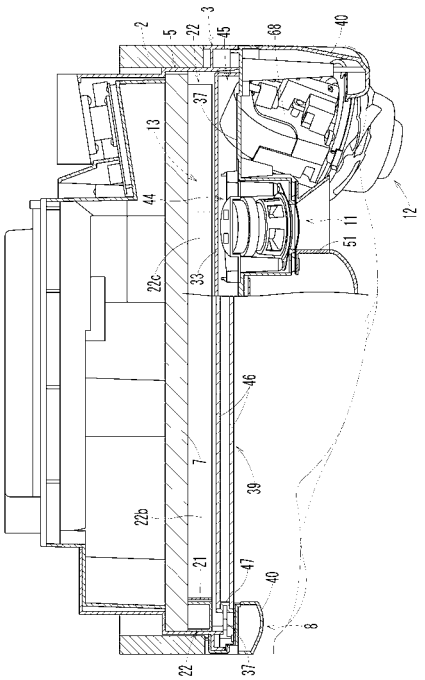
(21)出願番号　特願2014-34849(P2014-34849)
(22)出願日　平成26年2月26日(2014.2.26)

(71)出願人　391010943
株式会社藤商事
大阪府大阪市中央区内本町一丁目１番４号
(74)代理人　110001645
特許業務法人谷藤特許事務所
(72)発明者　板谷　洋平
大阪市中央区内本町一丁目１番４号　株式会社藤商事内

Ｆターム(参考)　2C088 DA09　EA50　EB78

(54)【発明の名称】遊技機

(57)【要約】
【課題】遊技盤と一緒に芳香発生源を変更できるようにする。
【解決手段】前枠３に着脱自在に装着された遊技盤７と、芳香を発生させる芳香演出手段１３Ａとを備える。芳香演出手段１３Ａは芳香発生源１３と、芳香発生源１３からの芳香を送る芳香送り手段１２とを有する。芳香発生源１３は遊技盤７の遊技領域２３以外で遊技７の前側又は裏側の何れか一方に備え、芳香送り手段１２は前枠３に備える。
【選択図】図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
遊技機本体に着脱自在に装着された遊技盤と、芳香を発生させる芳香発生手段とを備えた遊技機において、
前記芳香発生手段は、
前記遊技盤の遊技領域以外で該遊技盤の前後何れか設けられた芳香発生源と、
前記遊技盤の前側で前記遊技機本体に設けられ且つ前記芳香発生源からの芳香を遊技者側に送る芳香送り手段とを備えた
ことを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、パチンコ機、アレンジボール機等の遊技機に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
パチンコ機等の遊技機において、遊技機本体に遊技盤を着脱自在に装着すると共に、遊技機本体の裏側に芳香演出手段を備え、遊技盤の特別図柄表示手段の特別図柄の変動を開始すると、芳香演出手段が芳香を発生し、変動後の停止図柄の種類等に応じて複数種類の芳香の何れかにする芳香演出を行うようにしたものがある（特許文献１）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２０００－３００７３５号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
この種の遊技機では、遊技盤が遊技機本体に着脱自在であり、遊技盤を交換することによって遊技内容を変更できるようになっている。しかし、従来の芳香演出手段は遊技機本体の裏側にあるため、遊技盤の変更に応じて芳香の種類を変更することが困難である。
【０００５】
また従来の芳香演出手段は複数種類の芳香の内、その何れかの芳香を選択できるようになっているが、その芳香演出手段の有する複数種類の芳香の中から、遊技盤の遊技内容に最適な芳香を選択するとすれば、芳香演出手段側に活用されない多種類の芳香発生源を準備しておく必要があり、芳香演出手段の構成が複雑化し製作コストが高騰する等の問題もある。
【０００６】
本発明は、このような従来の問題点に鑑み、遊技盤と一緒に芳香発生源を変更できる遊技機を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
本発明は、遊技機本体に着脱自在に装着された遊技盤と、芳香を発生させる芳香発生手段とを備えた遊技機において、前記芳香発生手段は、前記遊技盤の遊技領域以外で該遊技盤の前後何れか設けられた芳香発生源と、前記遊技盤の前側で前記遊技機本体に設けられ且つ前記芳香発生源からの芳香を遊技者側に送る芳香送り手段とを備えたものである。
【発明の効果】
【０００８】
本発明では、遊技盤と一緒に芳香発生源を交換できる利点がある。
【図面の簡単な説明】
【０００９】
【図１】本発明の第１の実施形態を示すパチンコ機の正面図である。

【図２】同平面断面図である。
【図３】同側面断面図である。
【図４】同遊技盤の正面図である。
【図５】同ガラス扉の背面図である。
【図６】同送風演出手段の取り付け状態の断面図である。
【図７】同送風演出手段の側面断面図である。
【図８】同送風演出手段の平面断面図である。
【図９】同送風演出手段の側面断面図である。
【図１０】同送風演出手段の正面図である。
【図１１】同送風演出手段の開閉手段側の正面断面図である。
【図１２】同スピーカ部分の界面断面図である。
【図１３】同スピーカ取り付け部の側面断面図である。
【図１４】同スピーカ取り付け部の平面断面図である。
【図１５】同スピーカ取り付け部の背面断面図である。
【図１６】同スピーカ取り付け部の斜視図である。
【図１７】同芳香発生源の分解斜視図である。
【図１８】同芳香発生源の側面断面図である。
【図１９】同芳香発生源の平面断面図である。
【図２０】同制御系のブロック図である。
【図２１】同予告演出のフローチャートである。
【図２２】同予告演出のタイムチャートである。
【図２３】本発明の第２の実施形態を示すスピーカカバーの案内手段側の断面図である。
【図２４】本発明の第３の実施形態を示すスピーカ取り付け部の断面図である。
【図２５】本発明の第４の実施形態を示す芳香発生源の側面断面図である。
【図２６】本発明の第５の実施形態を示す芳香発生源の側面断面図である。
【図２７】本発明の第６の実施形態を示す芳香演出手段の構成図である。
【図２８】同要部の断面図である。
【図２９】同予告演出のタイムチャートである。
【図３０】本発明の第７の実施形態を示す芳香演出手段の平面断面図である。
【図３１】同経路開閉手段の正面断面図である。
【図３２】本発明の第８の実施形態を示す芳香演出手段の構成図である。
【図３３】同要部の平面断面図である。
【図３４】本発明の第９の実施形態を示す芳香演出手段の平面断面図である。
【図３５】同要部の構成図である。
【図３６】本発明の第１０の実施形態を示す芳香演出手段の平面断面図である。
【発明を実施するための形態】
【００１０】
以下、本発明の各実施形態を図面に基づいて詳述する。
【００１１】
図１～図２２は本発明をパチンコ機１に採用した第１の実施形態を例示する。パチンコ機１は図１、図２に示すように矩形状の外枠２と、この外枠２の前側に装着された前枠３とを備えている。前枠３は左右一端側が上下一対の前枠３用のヒンジ４により外枠２に縦軸廻りに開閉自在に枢支されている。
【００１２】
前枠３は図３に示すように上部側に矩形枠状の遊技盤装着部５を備え、その下側に支持板６が設けられている。遊技盤装着部５には遊技盤７が着脱自在に装着され、その遊技盤７の前側にガラス扉８が、またガラス扉８の下側で支持板６の前側に前面扉９が夫々配置されている。
【００１３】
遊技盤装着部５は前側から後側に凹入する矩形枠状に構成されており、前側の開口側か

ら遊技盤７を着脱自在に装着して、その遊技盤７を締結手段（図示省略）により受け部側に締結して固定するようになっている。なお、遊技盤装着部５は遊技盤７を後側から着脱自在に装着するようにしてもよい。

【００１４】

ガラス扉８、前面扉９は開閉扉を構成するものであり、図１に示すように、ヒンジ４と同一軸心を有するヒンジ１０により前枠３に開閉自在に枢着されている。なお、上下のガラス扉８と前面扉９とを一体化して、一つの開閉扉を構成するようにしても良い。また、外枠２、前枠３、ガラス扉８、前面扉９等により遊技機本体が構成されている。

【００１５】

ガラス扉８の上部には中央寄りの左右両側に一対のスピーカ（マグネット保有部品）１１が配置され、左右一側に送風演出手段１２が配置されている。なお、スピーカ１１を外側に配置し、送風演出手段１２をその内側に配置してもよい。

【００１６】

前面扉９の前側には、図１に示すように、発射用の遊技球を貯留する球供給皿１４と、余剰球を貯留する球受け皿１５とが上下に配置され、その側方に遊技球を発射する発射手段１６の発射ハンドル１７が設けられている。球供給皿１４の前側にはチャンスボタン１８、回転発光手段１９等が設けられている。

【００１７】

スピーカ１１は遊技中等の必要時に効果音を発生して効果音演出を行うためのものである。送風演出手段１２はガラス扉８の前側上部の左右一側から遊技者側へと送風して、特別利益状態の発生を送風により予告演出する等、各種の遊技状態の送風演出を行うためのものである。

【００１８】

送風演出手段１２は芳香送り手段を兼用しており、遊技盤７側の芳香発生源１３と共に芳香演出手段１３Ａを構成している。芳香演出手段１３Ａは芳香発生源１３からの芳香を送風演出手段１２の送風により遊技者側に送って芳香演出を行うためのものであり、この実施形態では送風演出手段１２が芳香送り手段を兼用しているため、送風演出と芳香演出とが組み合わさった芳香送風演出を行うようになっている。

【００１９】

なお、送風演出手段１２とは別に芳香送り手段を設けて、送風演出と芳香演出とを別々に行うか、送風演出と芳香演出とを異なるタイミングで組み合わせた組み合わせ演出を行うようにしてもよい。

【００２０】

発射手段１６は発射レール１６ａと、この発射レール１６ａ上の遊技球を打撃する打撃槌１６ｂとを備え、発射ハンドル１７を操作したときに打撃槌１６ｂが駆動されて、球供給皿１４から球送り手段（図示省略）を経て発射レール１６ａ上に一個ずつ供給された遊技球を打撃槌１６ｂにより遊技盤７側へと発射するようになっている。

【００２１】

遊技盤７の前面には、図４に示すように、ガイドレール２１と前飾り部材２２とが略円形状の遊技領域２３を取り囲むように配置されている。ガイドレール２１は発射手段１６から発射された遊技球を遊技領域２３の上部側へと案内するようになっている。

【００２２】

前飾り部材２２は遊技領域２３の外周側を飾るためのもので、図２～図４に示すように、ガイドレール２１と略同高さで略平坦状に形成された前面部２２ａと、この前面部２２ａの内周及び外周から後側に屈曲する内周壁２２ｂ及び外周壁２２ｃを一体に備え、ヒンジ４，１０と反対側の上下両側部分又は略全周部分に跨がって遊技盤７の前面に装着されている。この前飾り部材２２には、ヒンジ４，１０と反対側の下部に証紙等の貼付部２２ｄが設けられ、また、遊技盤７の遊技領域２３の外側上部前面には、送風演出手段１２の後方近傍に位置するように送風演出手段１２と前後に相対応して芳香発生源１３が着脱自在に設けられている。

【００２３】
遊技領域２３には図１、図４に示すように画像表示手段２４、普通図柄始動手段２５、特別図柄始動手段２６、可変入賞手段２０、普通入賞手段２７、普通図柄表示手段２８、特別図柄表示手段２９等の各種の遊技部品が配置されている。
【００２４】
画像表示手段２４は遊技領域２３の左右方向の略中央の上部に配置され、また、特別図柄始動手段２６、可変入賞手段２０は画像表示手段２４の下側に上下に配置されている。普通図柄始動手段２５は画像表示手段２４とガイドレール２１との間に配置されている。特別図柄始動手段２６は非開閉式入賞口２６ａと開閉式入賞口２６ｂとを有する。普通入賞手段２７は可変入賞手段２０の左右両側に設けられている。
【００２５】
画像表示手段２４は液晶式等の画像表示部３０と、画像表示部３０に対応する表示窓３１を有し且つ遊技盤７の前面に装着された前飾り枠３２とを備えている。前飾り枠３２の上部側の前面に普通図柄表示手段２８と特別図柄表示手段２９とが装着されている。
【００２６】
普通図柄表示手段２８は普通図柄を変動表示するためのもので、複数種類の普通図柄（例えば二種類の「○」「×」）に対応する複数個の発光素子により構成されており、普通図柄始動手段２５が遊技球を検出することを条件に２個の発光素子が交互に点灯するように所定時間点滅して、普通図柄始動手段２５の遊技球の検出時に抽選した乱数値が予め定められた特定遊技判定値と一致した場合に特定態様の「○」側の発光素子が点灯し、それ以外の場合に非特定態様の「×」側の発光素子が点灯して停止する。
【００２７】
特別図柄表示手段２９は発光部位の変化等で特別図柄を変動表示可能なセグメント式等により構成されており、特別図柄始動手段２６が遊技球を検出することを条件に、特別図柄が所定時間変動して、特別図柄始動手段２６の遊技球の検出時に抽選された乱数値が予め定められた特別遊技判定値と一致した場合に所定の特別遊技態様で、それ以外の場合に非特別遊技態様で停止するようになっている。
【００２８】
特別図柄始動手段２６の開閉式入賞口２６ｂは、普通図柄表示手段２８の変動後の停止図柄が特定態様となったときに所定時間（短時間）だけ開放するようになっている。可変入賞手段２０は可変入賞口２０ａを開閉する開閉板２０ｂを有し、特別図柄表示手段２９の変動後の特別図柄が特別遊技態様となって特別遊技状態が発生したときに開閉板２０ｂが前側に開放して、上方から落下する遊技球を入賞させるようになっている。
【００２９】
特別遊技状態中は開閉板２０ｂの開放から所定時間（例えば３０秒程度）が経過するか、その間に所定数（例えば１０個）の遊技球が入賞したときに開閉板２０ｂを閉じる動作を１ラウンドとし、この動作を所定回数（例えば１６ラウンド）継続するようになっている。
【００３０】
画像表示部３０は待機中にデモ画像を表示し、遊技中に特別図柄表示手段２９の特別図柄に対応する演出図柄３４ａ～３４ｃを変動表示する等、必要に応じて適宜タイミングで各種の演出画像を随時表示して画像演出を行うためのものである。即ち、特別図柄表示手段２９の特別図柄の変動に際しては、その特別図柄の変動に同期して１個又は複数個、例えば３個の演出図柄３４ａ～３４ｃが画像表示部３０に変動表示される。このとき演出図柄３４ａ～３４ｃは特別図柄始動手段２６の遊技球の検出を条件に、抽選により決定された所定の演出図柄変動パターンを経て所定時間変動した後、特別図柄の変動終了に同期して所定の順序（例えば左、右、中等の順序）で順次停止する。
【００３１】
演出図柄３４ａ～３４ｃの変動後の停止図柄は、特別図柄が特別遊技態様で停止する場合には全てが揃う特別演出態様となり、特別図柄が非特別遊技態様で停止する場合には少

なくとも一部が異なる非特別演出態様となる。

【００３２】

例えば、演出図柄３４ａ～３４ｃには０～９までの数字図柄が使用されており、特別図柄が特別遊技態様で停止する場合には演出図柄３４ａ～３４ｃは「７・７・７」等の特別演出態様で停止し、特別図柄が非特別遊技態様で停止する場合には演出図柄３４ａ～３４ｃは「２・３・４」等の非特別演出態様で停止する。

【００３３】

画像表示手段２４は変動後の特別図柄が特別遊技態様となる信頼度の高い演出図柄変動パターンを抽選したとき等、遊技者に対して期待感を抱かせる所定の遊技状態、例えば１個の演出図柄３４ｂを除く２個の演出図柄３４ａ，３４ｃが同じとなるリーチとなった場合に、画像表示部３０の所定箇所にチャンスボタン１８の操作を指示する操作指示画像３５を表示する。

【００３４】

そして、例えば特別図柄始動手段２６が遊技球を検出したときに特別遊技を抽選する等、変動後の特別図柄が特別遊技態様となった後に特別遊技状態が発生する信頼度が高い場合には、その操作指示画像３５に従って図柄変動中に適宜タイミングでチャンスボタン１８を操作すれば、チャンスボタン１８が明滅発光し、送風演出手段１２が芳香発生源１３からの芳香を含む風を遊技者の顔面側へと送風して、その芳香送風演出により、変動後の特別図柄が特別遊技態様となって特別遊技状態が発生する信頼度が高いことを予告するようになっている。

【００３５】

ガラス扉８は図２、図３、図５に示すように遊技盤７の遊技領域２３に対応する表示窓３１を有する扉主体３７と、この扉主体３７の裏側に固定具３８を介して着脱自在に装着されたガラス板ユニット３９と、扉主体３７の前面に装着された化粧カバー４０とを備え、表示窓３１内のガラス板ユニット３９を介して遊技領域２３を前面から透視するようになっている。

【００３６】

扉主体３７はガラス扉８の強度部材を構成する合成樹脂製であって、外周に前後両側又は前側に突出する外周縁４１を有する。この扉主体３７は裏面側の左右両側部に上下方向に配置された補強部材４２ａ，４２ｂと、裏面側の下部に左右方向に配置された補強部材４３とを備えている。また、扉主体３７には、図２に示すように、上部側の前面にスピーカ１１の配置部４４と送風演出手段１２の配置部４５とが設けられ、その各配置部４４，４５にスピーカ１１、送風演出手段１２が夫々配置されている。スピーカ１１、送風演出手段１２は扉主体３７の上部裏側に装着されたハーネスカバー３３により裏側から覆われている。

【００３７】

なお、扉主体３７はスピーカ１１、送風演出手段１２をガラス扉８に組み込む場合の取り付け枠又は支持枠を構成するものであり、スピーカ１１、送風演出手段１２をガラス扉８以外の他の箇所に配置する場合には、その他の箇所の部材が取り付け枠又は支持枠を構成することになる。従って、スピーカ１１、送風演出手段１２は支持板６、前面扉９に設ける等、ガラス扉８以外の箇所に組み込むこともできる。

【００３８】

ガラス板ユニット３９は図２、図３に示すように、所定の間隔を置いて配置された前後２枚のガラス板４６と、この両ガラス板４６を外周側で保持する保持部材４７とを備え、下側の補強部材４３上で係合手段４８を介して補強部材４３に係合し、且つ左右一対の固定具３８により扉主体３７の裏側に着脱自在に装着されている。

【００３９】

下部の補強部材４３は図３、図５に示すようにガラス板ユニット３９を受ける受け部４９を有し、また、係合手段４８は補強部材４３に形成された係合部４８ａと、保持部材４７から下側に突出して係合部４８ａに上側から係脱自在に係合する係合突部４８ｂとを有

する。保持部材４７の上部側の左右両側には固定突部５０があり、この固定突部５０に対応して扉主体３７の裏側に固定具３８が回動自在に枢支されており、その固定具３８により固定突部５０を扉主体３７側に締結するようになっている。

【００４０】

化粧カバー４０は光透過性を有する合成樹脂製であって、前面側に適宜デザインの凹凸状に形成された装飾部を有し、その装飾部の裏側に、発光ダイオード等の発光体が設けられた発光基板（図示省略）が必要箇所に配置されている。化粧カバー４０の上部には、スピーカ１１に対応してメガホン状のコーン部５１が設けられると共に、送風演出手段１２の前部側が突出する開口５２が設けられている。

【００４１】

送風演出手段１２は遊技者の顔面側へと送風して送風演出を行うためのものであり、図２、図６～図１１に示すように送風手段５３と、送風手段５３からの風を遊技者側に送風する送風経路５４と、送風経路５４の送風方向に対して略直交する方向（略交差する方向）に出退して送風経路５４を開閉する経路開閉手段５５と、これらを支持する支持体５６とを備え、遊技者の顔面側へと送風すべくガラス扉８の扉主体３７に内側斜め下向きに配置されている。

【００４２】

送風手段５３は図７～図９に示すように、例えばシロッコファン等の遠心型ファン５７により構成されており、ファンケース５８と、このファンケース５８内に横軸心廻りに回転自在に配置された羽根車５９と、ファンケース５８内に固定され且つ羽根車５９を横軸心廻りに回転駆動する駆動モータ（駆動源）６０とを有し、羽根車５９の回転により、その内周側の吸い込み口６１からファンケース５８内に外気を吸い込んで、遠心力によりファンケース５８の前面側の排出口６２へと排出するようになっている。

【００４３】

ファンケース５８は一側に吸い込み口６１が設けられ、前面側に排出口６２が設けられている。ファンケース５８の後部は扉主体３７に形成された開口部３７ａを経て後側に突出している。なお、遠心型ファン５７はシロッコファン以外のターボファンでもよい。

【００４４】

支持体５６は正面視円環状であって、図７、図８に示すように、環状の外周支持部６３と、外周支持部６３の前側に胴部６４を介して設けられた支持壁６５とを有する。外周支持部６３の裏側にはファンケース５８を左右、上下から取り囲む左右一対の保護壁６７，６８がネジ等により固定され、ファンケース５８はこの保護壁６７，６８内で排出口６２側が支持壁６５の裏側に当接するようにネジ等で固定されている。なお、保護壁６７，６８は左右に二つ割になっており、その各保護壁６７，６８が支持体５６に別々に固定されている。

【００４５】

支持体５６は外周支持部６３及び／又は保護壁６７，６８から後方に突出する複数個の取り付けボス６９を介して、扉主体３７の取り付け部３６にネジ等により着脱自在に固定されている。また、支持壁６５にはファンケース５８の排出口６２に連通する連通口６５ａが略中心部に設けられている。

【００４６】

経路開閉手段５５は図７～図１１に示すように、支持体５６の支持壁６５の前側に所定の間隔をおいて配置された前カバー７０と、支持壁６５と前カバー７０との間に上下動自在に配置された板状のフラッパー式の開閉部材７１と、ファンケース５８の一側で支持体５６に直接又は保護壁６８を介して固定された駆動源、例えばソレノイド７２と、このソレノイド７２と開閉部材７１とを連動させる連動機構７３とを備えている。

【００４７】

前カバー７０は支持壁６５の連通口６５ａと前後に対応する接続口７０ａを有し、ネジ等の固定具７０ｃにより支持壁６５の前面に装着されている。開閉部材７１は連通口６５ａよりも若干大きい形状の開閉部７１ａを有し、この開閉部７１ａから送風経路５４の外

側に離れた端部側で前後方向の枢軸７５により揺動自在に枢支され、連通口６５ａを閉じる閉位置Ａと、この閉位置Ａよりも上側に上昇して連通口６５ａを開ける開位置Ｂとの間で上下方向に昇降自在である。

【００４８】

なお、枢軸７５は開閉部７１ａの閉位置Ａと開位置Ｂとの略中央の側方に送風経路５４と略平行に配置されており、通常時には開閉部材７１がその自重によって閉位置Ａに位置するようになっている。

【００４９】

支持壁６５、前カバー７０は開閉部材７１を開閉自在に支持案内する案内手段を構成しており、その支持壁６５、前カバー７０には連通口６５ａ、接続口７０ａの上側に枢軸７５廻りの円弧状の案内突条６５ｂ，７０ｂが１本又は複数本形成され、この案内突条６５ｂ，７０ｂを介して開閉部材７１を開閉方向に案内するようになっている。

【００５０】

ソレノイド７２、連動機構７３は送風手段５３の一側で保護壁６７の保持ケース７４内に組み込まれている。ソレノイド７２は保持ケース７４内の上部に収容して固定され、連動機構７３はソレノイド７２の下側で保持ケース７４内に前後方向に配置された連動アーム７６を有する。

【００５１】

連動アーム７６は後端側が横方向の枢軸７７により上下揺動自在に枢支され、中間部にソレノイド７２のプランジャー７８が下側から係合されている。連動アーム７６は前端に凹入状の係合部７６ａを有し、この係合部７６ａに開閉部材７１の係合突起７９が係合している。係合突起７９は枢軸７５よりも開閉部７１ａ側で開閉部材７１に一体に形成されており、支持壁６５を貫通して後方に突出している。

【００５２】

なお、係合突起７９、係合部７６ａは係合手段を構成し、連動アーム７６、開閉部材７１は係合手段を介して連動するようになっている。連動アーム７６に係合突起７９を、開閉部材７１に係合部７６ａを夫々設けてもよい。

【００５３】

連動アーム７６は左右方向に広幅状であって、この連動アーム７６を枢支する枢軸７７は、保護壁６７及び保持ケース７４により両持ち状に支持されている。プランジャー７８は連動アーム７６の中間孔に上下方向に遊嵌状に挿通され、下端の係合部７８ａが連動アーム７６に下側から係合している。

【００５４】

従って、ソレノイド７２が励磁したときには、プランジャー７８が連動アーム７６を引き上げて開閉部材７１を枢軸７５廻りに開位置Ｂへと駆動し、ソレノイド７２が消磁したときには、プランジャー７８、連動アーム７６が下降して開閉部材７１が自重によって閉位置Ａへと下降するようになっている。

【００５５】

支持体５６の前側には図７、図８に示すように、円筒状の第１送風ダクト８０を有する内カバー８１と、円筒状の第２送風ダクト８９を有し且つ内カバー８１の前側に配置された遮光体８７と、遮光体８７の外周に配置された装飾体８８と、内カバー８１、遮光体８７及び装飾体８８を外側から覆う外カバー８２と、外カバー８２の外周に環状に設けられ且つ内カバー８１及び外カバー８２を押えて支持体５６に固定された環状カバー８３とが設けられており、その内部に第１発光手段８４と第２発光手段８５とが略内外同心状に組み込まれている。第１送風ダクト８０の後端部は前カバー７０の接続口７０ａに挿入されている。

【００５６】

内カバー８１、外カバー８２、装飾体８８は光透過性を有する合成樹脂製である。内カバー８１は前端側内周の発光壁８６と、この発光壁８６を介して中心部に設けられた前後方向の第１送風ダクト８０を有し、その発光壁８６の前側には、遮光性を有する遮光体８

７と、発光壁８６との間で遮光体８７を保持する装飾体８８とが設けられている。

【００５７】

遮光体８７は周方向に複数個の光透過孔８７ａを有し、また中心部には第１送風ダクト８０に接続して前側に突出する第２送風ダクト８９が設けられている。装飾体８８は第２送風ダクト８９の外周に套嵌されており、遮光体８７の光透過孔８７ａを経て後側から照射された光により発光する発光部８８ａを備えている。なお、第１送風ダクト８０と第２送風ダクト８９は一体でもよい。

【００５８】

送風経路５４は、図６に示すように、送風手段５３の吸い込み口６１から第２送風ダクト８９の先端の送風口８９ａとに跨がってファンケース５８、第１送風ダクト８０、第２送風ダクト８９等により形成されており、その送風経路５４中に配置された遠心型ファン５７の出口である排出口６２側に経路開閉手段５５が設けられている。

【００５９】

外カバー８２は光透過性を有し、内カバー８１、装飾体８８等を覆うようになっている。環状カバー８３は、図７、図８及び図１０に示すように、外カバー８２の外周に套嵌された遮光カバー９０と、この遮光カバー９０の裏側に組み込まれた発光カバー９１とを備え、内カバー８１、外カバー８２の後端側を支持体５６の外周支持部６３に前側から固定するようになっている。遮光カバー９０は周方向に複数個の光透過孔９０ａを有し、その光透過孔９０ａに発光カバー９１の一部が入っている。

【００６０】

第１発光手段８４は、図７、図８及び図１０に示すように、発光壁８６の後側で第１送風ダクト８０の外周に配置されたリング状の発光基板８４ａと、この発光基板８４ａの前面に装着された発光ダイオード等の発光体８４ｂを有し、第１送風ダクト８０の外周で発光壁８６、装飾体８８に後側から光を照射して発光させるようになっている。

【００６１】

第２発光手段８５は、図７、図８及び図１１に示すように、発光カバー９１の後側で胴部６４の外周に配置されたリング状の発光基板８５ａと、この発光基板８５ａの前面に装着された発光ダイオード等の発光体８５ｂを有し、発光カバー９１に後側から光を照射して発光させるようになっている。

【００６２】

経路開閉手段５５のソレノイド７２、連動アーム７６とは反対側の保護壁６７には、図８に示すように、ファンケース５８の吸い込み口６１側に対応して網目状の通気孔６７ａが形成されており、また、この保護壁６８の外側に、保持ケース９３内に装着された制御基板９４が所定の間隔をおいて配置されている。保持ケース９３は支持体５６の外周支持部６３から後方に突出する突出部９５に裏側からネジ等により固定されている。送風手段５３の駆動モータ６０、経路開閉手段５５のソレノイド７２、発光手段８４，８５の発光基板８４ａ，８５ａに接続されたハーネスは、支持壁６５、胴部６４に形成された切り欠き部９６から外周支持部６３の内周を経て制御基板９４に接続されている。

【００６３】

スピーカ１１は例えばコーン型の動電変換式であって、図１２～図１６に示すようにマグネット１１１、継鉄１１２、スピーカフレーム１１３等を有する。スピーカフレーム１１３は前端側の外周に径方向の両側に突出する突出部１１３ａを有し、その各突出部１１３ａに取り付け孔１１３ｂが設けられている。

【００６４】

なお、スピーカ１１はマグネット１１１を使用する動電変換式であれば、コーン型以外のドーム型でもよい。スピーカ１１はマグネット１１１を有するマグネット保有部品の一例であり、マグネット保有部品にはスピーカ１１の他に各種のモータ等もある。

【００６５】

スピーカ１１はスピーカフレーム１１３が前側となりマグネット１１１が端側となるように、扉主体３７の収容室１１５内に前下向きに傾斜状に収容され、扉主体３７の裏側に

着脱自在に装着されたスピーカカバー１１４により後側から覆われている。

【００６６】

収容室１１５は扉主体３７から前側へと凹入する形状であって、スピーカ１１の外周に近接して扉主体３７から前側に突出する周壁１１６と、この周壁１１６の前端側に前下向きに傾斜状に形成された取り付け部１１７とを一体的に備えている。そして、取り付け部１１７の後側にスピーカ１１が、前側にスピーカキャップ１１８及びコーン部５１が着脱自在に装着されている。

【００６７】

取り付け部１１７はスピーカ１１の振動板（図示省略）の前側に位置する開口部１１７ａを備え、この取り付け部１１７の後側にスピーカフレーム１１３の前端側の外周部分が当接して、その各取り付け孔１１３ｂに後側から挿入された左右一対のネジ等の固定具１１９によりスピーカ１１が取り付けられている。

【００６８】

周壁１１６はスピーカフレーム１１３の突出部１１３ａに対応する左右幅を有し、この周壁１１６の内周面には、スピーカフレーム１１３の突出部１１３ａを前後方向に案内する案内部１１６ａが上下両側に設けられている。案内部１１６ａはスピーカフレーム１１３の取り付け孔１１３ｂが取り付け部１１７の取り付け位置に一致するようにスピーカ１１を案内し位置決めするようになっている。

【００６９】

スピーカカバー１１４は収容室１１５の開口側でスピーカ１１を裏側から覆い、スピーカ１１とその裏側に左右方向に配置されるハーネス（図示省略）等との干渉を避けるためのものである。このスピーカカバー１１４は、扉主体３７の後側に当接又は近接する支持部１２０と、この支持部１２０の略中央部に配置され且つスピーカ１１の後部を覆う覆い部１２１と、固定具１１９及び／又は工具を取り付け孔１１３ｂ側へと案内する案内手段１２２とを一体的に備え、左右両端側の係合手段１２３を介して扉主体３７に後側から着脱自在に装着されている。なお、スピーカカバー１１４は合成樹脂製等の非磁性体により構成されている。

【００７０】

支持部１２０は凹部３７ｂ内で扉主体３７の後側に当接又は近接する板部１２０ａと、この板部１２０ａから後側に突出する左右方向の補強部１２０ｂとを有し、その板部１２０ａ及び補強部１２０ｂに跨がって、マグネット１１１に対応する覆い部１２１が一体に設けられている。覆い部１２１にはマグネット１１１が遊嵌され、スピーカ１１を後側から押えるようになっている。なお、覆い部１２１の裏側には、１個又は複数個のハーネス掛け部１２１ａが設けられている。

【００７１】

案内手段１２２は周壁１１６とマグネット１１１との間で収容室１１５内に配置されており、マグネット１１１の近傍でスピーカフレーム１１３の各取り付け孔１１３ｂに対応してスピーカカバー１１４から前側に突出する円筒状の案内筒部１２２ａを有し、この案内筒部１２２ａは固定具１１９の挿入方向に向かってテーパー状に形成されている。

【００７２】

案内筒部１２２ａの後端側は支持部１２０に開口状に接続され、また、前端側はスピーカフレーム１１３の取り付け孔１１３ｂの後側近傍まで伸びており、ドライバー等の工具の先端に取り付けて後端開口側から挿入されたネジ等の固定具１１９を取り付け孔１１３ｂ側へと挿入方向に案内するようになっている。

【００７３】

案内筒部１２２ａは緩やかなテーパー状に形成された第１案内面１２２ｂと、この第１案内面１２２ｂの前端部に設けられ且つ第１案内面１２２ｂよりも大きい角度でテーパー状に形成された第２案内面１２２ｃとを有し、その第２案内面１２２ｃの先端側に、取り付け孔１１３ｂと対向する小径の案内口１２２ｄが設けられている。案内口１２２ｄは固定具１１９が通過し得る大きさであればよい。

【００７４】
係合手段１２３は扉主体３７から後側に突出する係合爪１２３ａと、スピーカカバー１１４の支持部１２０に形成され係合爪１２３ａに係脱自在に係合する係合部１２３ｂとを備えている。係合部１２３ｂは支持部１２０から後方に突出する箱状の突部１２３ｃの後端側に形成されている。
【００７５】
スピーカキャップ１１８は多数の小孔が形成されたドーム部１１８ａを有し、その外周部が取り付け部１１７とコーン部５１の基部側との間に介在されている。コーン部５１は前側に拡開するメガホン状でり、スピーカキャップ１１８の周縁部に当接する後端の基部に、スピーカキャップ１１８を貫通して取り付け部１１７の前面の位置決め凹部１１７ｂに嵌合する取り付けボス５１ａを有し、スピーカ１１を固定する固定具１１９を取り付けボス５１ａに結合して取り付け部１１７に着脱自在に固定されている。固定具１１９はスピーカフレーム１１３の取り付け孔１１３ｂから取り付け部１１７、スピーカキャップ１１８を貫通してコーン部５１の基部側の取り付けボス５１ａに螺合されている。
【００７６】
芳香発生源１３は、図１７～図１９に示すようにケース１２５内に芳香剤１２６を収納して構成され、遊技盤７の前側上部で前飾り部材２２に着脱自在に装着されている。芳香剤１２６はその芳香により遊技者の遊技に対する高揚感を高め得るように、遊技盤７の遊技主題に適した芳香性を有するものが使用されており、通気性を適度に抑制できる袋１２７に入れてケース１２５内に収められている。
【００７７】
ケース１２５は前面等の適当箇所に通気孔１２８を有し、使用前は図１９に示すように通気孔１２８を塞ぐ密封シート１２９が粘着剤を介して剥離可能に貼着されている。なお、芳香剤はケース１２５に直接入れてもよい。
【００７８】
前飾り部材２２には図１２に示すように、送風演出手段１２の遠心型ファン５７の吸い込み口６１の近傍に、芳香発生源１３用の装着部１３０が設けられており、この装着部１３０に芳香発生源１３のケース１２５が着脱自在に装着されている。装着部１３０は前飾り部材２２の前面部２２ａの後側にケース１２５に対応して凹状に形成され、前側からケース１２５が着脱自在に挿入されている。
【００７９】
装着部１３０の下部側は係合手段１３１を介してケース１２５に係合されている。この係合手段１３１は装着部１３０の下部側に形成された係合部１３１ａと、ケース１２５に形成された係合突部１３１ｂとを有し、ケース１２５を装着部１３０に装着する際には、係合突部１３１ｂを係合部１３１ａに係合させてケース１２５を装着部１３０内に押し込むようになっている。なお、ケース１２５には指掛け部１３２が設けられており、装着部１３０内のケース１２５を取り外すときには指掛け部１３２に指先を掛けて取り外すようになっている。
【００８０】
扉主体３７の上部裏側には、スピーカ１１、経路開閉手段５５、遠心型ファン５７、発光手段８４，８５、その他の電気部品に接続されたハーネス（図示省略）が左右方向に配置され、そのハーネスを後側から覆うハーネスカバー３３が着脱自在に装着されている。ハーネスカバー３３は図１２に示すように、送風演出手段１２と芳香発生源１３との間に配置されており、このハーネスカバー３３には、扉主体３７の開口部３７ａに対応して連通孔３３ａが設けられている。従って、遠心型ファン５７は芳香発生源１３からの芳香を扉主体３７の開口部３７ａを経て吸い込み口６１側に吸い込み易くなっている。
【００８１】
図２０は演出制御系を例示する。演出制御系は演出制御手段１００、予告演出抽選手段１０１等を備えている。予告演出抽選手段１０１は予告演出抽選機能を有し、また、演出制御手段１００は画像表示手段２４、スピーカ１１、発光手段８４，８５等による通常の

各種演出を制御する通常演出制御機能と、予告演出抽選手段１０１が予告演出を抽選した場合に、その予告演出の抽選結果に基づいて、画像表示手段２４と送風演出手段１２とを組み合わせた予告演出を制御する予告演出制御機能とを有する。

【００８２】

予告演出抽選手段１０１は特別図柄始動手段２６の遊技球の検出に基づいて予告演出の有無、種類等を抽選し決定するようになっている。予告演出には特別図柄表示手段２９の変動後の特別図柄が特別遊技態様となる信頼度の大小等の各種の遊技条件に応じて複数種類の予告演出パターンがあり、予告演出抽選手段１０１は予告演出の実行を抽選したときには、その予告演出パターンの種類も併せて決定するようになっている。

【００８３】

演出制御手段１００は、画像表示手段２４の演出図柄３４ａ～３４ｃ、背景図柄、操作指示画像３５等による画像を制御する画像演出制御部１０２、スピーカ１１の効果音による効果音演出を制御する効果音演出制御部１０３、送風演出手段１２の芳香を含む風の送風による芳香送風演出を制御する芳香送風演出制御部１０４、発光手段８４，８５の発光による発光演出を制御する発光演出制御部１０５と、画像演出制御部１０２、芳香送風演出制御部１０４を介して画像表示手段２４、送風演出手段１２及び芳香演出手段１３Ａによる予告演出を制御する予告演出制御部１０６とを有する。

【００８４】

予告演出制御部１０６は予告演出抽選手段１０１から所定の予告演出パターンでの予告演出指令があった場合に、その予告演出指令と同時又はその後の所定のタイミングでチャンスボタン１８を操作可能とし、その予告演出指令、チャンスボタン１８の操作に従って画像演出制御部１０２を介して画像表示手段２４を制御し、芳香送風演出制御部１０４を介して送風演出手段１２を制御するためのものである。

【００８５】

画像演出制御部１０２は予告演出抽選手段１０１からの所定種類の予告演出指令があった場合に、画像表示手段２４に表示される操作指示画像３５を制御するようになっている。この操作指示画像３５はチャンスボタン１８の有効操作期間ＴＡを示すものであり、その有効操作期間ＴＡ中は画像表示手段２４に表示されている。

【００８６】

なお、チャンスボタン１８は操作指示画像３５の表示中に複数回操作するようにしてもよいし、１回操作するようにしてもよい。１回操作の場合には、チャンスボタン１８の操作後に操作指示画像３５の表示を終了するようにしてもよい。

【００８７】

芳香送風演出制御部１０４は予告演出抽選手段１０１からの所定種類の予告演出指令があった場合に、少なくともチャンスボタン１８の有効操作期間ＴＡ中は送風手段５３を運転させる運転制御機能と、送風手段５３の運転中にチャンスボタン１８の操作があった場合に、演出パターン毎に定められた時間だけ開閉部材７１が送風経路５４を開放するように経路開閉手段５５の開閉を制御する開閉制御機能とを有する。

【００８８】

なお、開閉部材７１の開放による送風演出は、演出パターンが１種類の場合には、チャンスボタン１８の操作から有効操作期間ＴＡの終了まで、又はチャンスボタン１８の操作から有効操作期間ＴＡ内の所定時間Ｔ（例えば一定時間）までとしてもよいし、演出パターンが複数種類の場合には、経路開閉手段５５の開放時間の長短、開閉回数等を適宜組み合わせて各演出パターンを構成してもよい。

【００８９】

更にチャンスボタン１８の有効操作期間ＴＡ中にチャンスボタン１８の操作があった場合には、必ず経路開閉手段５５が開放して所定時間Ｔの送風を実行するようにしてもよい。この場合には、チャンスボタン１８の有効操作期間ＴＡの終了に関係なく、そのチャンスボタン１８の操作から少なくとも所定時間Ｔは送風手段５３が運転を継続し、その所定時間Ｔの経過後に経路開閉手段５５が閉じ送風手段５３が停止して送風を終了すればよい

。また、送風演出を終了する際には、先ず経路開閉手段５５が閉じて送風手段５３が停止するか、経路開閉手段５５の閉鎖と送風手段５３の停止とを略同時にしてもよい。

【００９０】

このパチンコ機１では、図２１、図２２に示すような手順で芳香送風演出による予告演出処理が実行される。先ず特別図柄始動手段２６の遊技球の検出に基づいて予告演出抽選手段１０１により予告演出抽選が実行される（図２１のＳ１）。この予告演出抽選において何等かの予告演出の実行が決定した場合には、その予告演出指令が演出制御手段１００の予告演出制御部１０６に送られる。そして、この予告演出制御部１０６で予告演出当選の有無等が判定され（図２１のＳ２）、予告演出に当選した場合には、予告演出制御部１０６の制御により、特別図柄表示手段２９の特別図柄、画像表示手段２４の演出図柄３４ａ～３４ｃの変動開始と同時又はその後の所定のタイミングでチャンスボタン１８が操作可能となる。

【００９１】

そして、チャンスボタン１８が操作可能になれば、画像演出制御部１０２の制御により、そのチャンスボタン１８の有効操作期間ＴＡ中、画像表示手段２４の適当箇所に操作指示画像３５が表示される（図２１のＳ３）。一方、芳香送風演出制御部１０４の制御により、図２２（ａ）～（ｄ）に示すようにチャンスボタン１８の有効操作期間ＴＡ中、送風手段５３の遠心型ファン５７が運転して送風可能な待機状態となる（図２１のＳ４）。

【００９２】

そして、操作指示画像３５の表示期間中に遊技者がチャンスボタン１８を１回又は所定回数操作すれば（図２１のＳ５、Ｓ６）、図２２（ｃ）（ｅ）に示すようにチャンスボタン１８の操作に同期して経路開閉手段５５が所定の演出パターンで開放して（図２１のＳ７）、送風演出手段１２が芳香発生源１３からの芳香を含む風を送風する芳香送風演出が実行される（図２１のＳ８）。従って、この芳香送風演出により、特別図柄表示手段２９の特別図柄の変動後の遊技状態に期待感を抱かせる等、その後の遊技状態に対する遊技者の興趣を喚起することができる。

【００９３】

なお、経路開閉手段５５はチャンスボタン１８の操作から時間Ｔ１遅れて開放することが望ましい。この時間Ｔ１は遠心型ファン５７が送風可能な運転状態となるための時間であり、これによって芳香送風演出の安定化を図ることができる。

【００９４】

送風演出手段１２では、通常、送風手段５３は停止し、経路開閉手段５５が送風経路５４を閉鎖している。このときにも芳香発生源１３では芳香が発生するが、その芳香はガラス扉８と遊技盤７との間の上部側に滞留する程度である。従って、芳香の発生量を少なく抑えておけば、遊技者側に届かないか、届き難い程度にすることができる。また若干の芳香が出たとしても、パチンコ機の上部側から遊技ホールの換気を経て室外へと排出することができる。

【００９５】

予告演出抽選において送風演出を含む予告演出に当選すると、予告演出制御部１０６から芳香送風演出制御部１０４を経て送風演出手段１２の送風手段５３に運転指令が入る。そして、遠心型ファン５７が運転し、羽根車５９が図７のＸ１方向に回転する。

【００９６】

しかし、この時点では経路開閉手段５５が送風経路５４を閉鎖しているため、遠心型ファン５７は羽根車５９がＸ１方向に回転する空転状態にある。従って、送風手段５３が運転状態となるものの、芳香発生源１３で発生した芳香を含む風が遊技者に対して送風されることはない。

【００９７】

その後、操作指示画像３５の表示期間中に遊技者がチャンスボタン１８を操作すれば、芳香送風演出制御部１０４の制御により、経路開閉手段５５のソレノイド７２が励磁してプランジャー７８を介して連動アーム７６を枢軸７７廻りに上昇方向（図９のＸ２方向）

に引き上げる。そして、この連動アーム７６の回動に連動して、開閉部材７１が枢軸７５廻りに閉位置Ａから開位置Ｂへと図１１のＸ３方向に上昇し、開閉部材７１が送風経路５４を開放する。

【００９８】

この開閉部材７１による送風経路５４の開放と同時に、遠心型ファン５７が羽根車５９の回転により、吸い込み口６１から芳香を含む外気を図８のＸ４方向に吸い込んだ後、送風ダクト８０，８９から排出口６２を経て遊技者側へと送る芳香送風動作を開始する。このため芳香を含む風が遊技者の顔面側に急激に図８のＸ５方向に送風されることになり、遊技者はその急激な芳香送風によって芳香送風演出を容易且つ確実に把握することができる。

【００９９】

経路開閉手段５５が開放すれば、遠心型ファン５７の羽根車５９の回転により、遠心型ファン５７が吸い込み口６１の外側周辺の外気を急速に吸い込む。その結果、芳香発生源１３の周辺からハーネスカバー３３の連通孔３３ａ、扉主体３７の開口部３７ａを経て遠心型ファン５７の吸い込み口６１側に至る空気の流れ（図１２のＸ６方向）ができるので、遠心型ファン５７は芳香発生源１３で発生した芳香をその空気の流れと一緒に確実に吸い込むことができる。

【０１００】

また、所定の送風演出時間が経過すると、経路開閉手段５５のソレノイド７２が消磁して連動アーム７６が下降し、開閉部材７１が開位置Ｂから閉位置Ａへと下降して送風経路５４を閉鎖する。そのため送風手段５３が運転中であっても羽根車５９が空転状態になり、開閉部材７１による送風経路５４の閉鎖により急激に送風が終了することになる。そして、その後、送風手段５３が停止する。

【０１０１】

従って、開閉部材７１による送風経路５４の開閉により、送風演出手段１２による芳香送風の開始、終了がメリハリのあるものとなり、遊技者は芳香送風演出の開始、終了を容易且つ確実に把握することができる。

【０１０２】

また、開閉部材７１の開閉により芳香送風の開始、停止にメリハリが出るため、遊技者は少ない風量でもその事実を容易に把握することができる。そのため大風量の風を送風する場合には、季節等によっては遊技者に対して不快感を与えるような惧れもあるが、そのような問題もない。

【０１０３】

更に送風経路５４を開閉する経路開閉手段５５を設けているので、送風手段５３として動圧の低い遠心型ファン５７を採用することができる。例えば、送風手段５３に軸流型ファンを採用すれば、送風時の騒音が大きいことに併せて動圧が高くなるため、遊技者が送風時に違和感又は不快感を感じることがある。しかし、遠心型ファン５７は送風時の動圧が低いので、そのような違和感又は不快感を防止できる。

【０１０４】

また、遠心型ファン５７を採用しただけでは送風時の動圧が低いため、遊技者が送風を把握し難くなるが、経路開閉手段５５を設けることにより、芳香送風開始・終了の変化を明瞭にでき、それによって遊技者が送風を容易且つ確実に把握することができる。

【０１０５】

しかも、経路開閉手段５５は板状の開閉部材７１を送風経路５４の送風方向に対して略直角方向に出退させる構造であるため、経路開閉手段５５の送風経路５４の送風方向の寸法を小さくでき、送風演出手段１２の小型化を図ることが可能である。

【０１０６】

更に、芳香発生源１３を遊技盤７に設けているので、遊技盤７毎にその遊技課題に応じた芳香を発生する芳香発生源１３を容易に採用することができ、遊技盤７を多種類の遊技課題のものに交換した場合にも、それに適した芳香を発生させることが可能である。また

、芳香の異なる芳香発生源１３を多種類備えておき、その何れかの芳香を選択して使用する場合に比較して無駄がなく、製作コストの低減を図ることができる。

【０１０７】

しかも、送風演出用の送風演出手段１２を利用して、これに芳香発生源１３を組み合わせて芳香演出手段１３Ａを構成しているので、送風演出と芳香演出とを組み合わせた芳香送風演出となり、専用の芳香送り手段を備える場合に比較して構造的に簡単であり、製作コストを低減できる。

【０１０８】

また芳香発生源１３が遊技盤７側にあり、その芳香を送る送風演出手段１２がガラス扉８側にあるため、遊技盤７を交換した場合にも、送風演出手段１２をそのまま利用することが可能である。芳香発生源１３は遊技盤７の前飾り部材２２に備えられた装着部１３０に着脱自在であり、芳香剤１２６の残量が低下すれば、そのケース１２５を取り外して新しいものと容易に交換することができる。

【０１０９】

スピーカ１１、送風演出手段１２を扉主体３７に取り付ける場合には、次のようにする。取り付け部１１７の前側に取り付けボス５１ａ、位置決め凹部１１７ｂを介してスピーカキャップ１１８、コーン部５１を位置決めする。その後、収容室１１５内に後側からスピーカ１１を挿入し、そのスピーカフレーム１１３の前端側を取り付け部１１７に当接させる。このときスピーカフレーム１１３の取り付け孔１１３ｂがコーン部５１側の取り付けボス５１ａと一致するように、収容室１１５内のスピーカ１１を位置決めする。

【０１１０】

次にスピーカ１１の後側からスピーカカバー１１４を合わせた後、このスピーカカバー１１４の左右両端側を係合手段１２３を介して扉主体３７に固定する。このときスピーカカバー１１４の両端側の係合部１２３ｂを扉主体３７の係合爪１２３ａに合わせて後方側から押圧すれば、係合爪１２３ａが係合部１２３ｂに案内されて係合するので、収容室１１５内のスピーカ１１を後側から覆うように、スピーカカバー１１４を扉主体３７に容易に装着できる。

【０１１１】

次にドライバー等の工具の先端にネジ等の固定具１１９を支持した状態でマグネット１１１と周壁１１６との間の僅かな隙間から固定具１１９を挿入して、その固定具１１９をコーン部５１の取り付けボス５１ａに螺合することにより、取り付け部１１７の前後両側にスピーカ１１、コーン部５１等を固定することができる。

【０１１２】

その際にスピーカカバー１１４の案内手段１２２を利用すれば、固定具１１９、工具等が磁性材であっても、マグネット１１１の磁界の影響を受けることなく、容易に固定具１１９を取り付けボス５１ａに螺合することができる。

【０１１３】

即ち、スピーカカバー１１４を扉主体３７に装着すれば、左右一対の案内手段１２２の案内筒部１２２ａが収容室１１５側でマグネット１１１と周壁１１６との隙間に前後方向に配置されることになる。そこで、案内筒部１２２ａ内に後端の開口側から固定具１１９及び工具を挿入して、その第１案内面１２２ｂ、第２案内面１２２ｃに沿って固定具１１９及び工具を取り付け孔１１３ｂ側へと摺動させて行けば、固定具１１９を取り付け孔１１３ｂ、取り付けボス５１ａに合わせることができる。

【０１１４】

従って、案内手段１２２の近傍にマグネット１１１があるにも拘わらず、その磁界の影響を受けて固定具１１９が工具から脱落してマグネット１１１に吸着されるようなことがなくなり、スピーカ１１の取り付け作業を容易且つ能率的に行うことができる。

【０１１５】

また、スピーカ１１を交換する場合には、スピーカカバー１１４の案内筒部１２２ａに沿ってドライバー等の工具を挿入して固定具１１９を操作し、固定具１１９を取り付けボ

ス５１ａから外す。そして、外れた固定具１１９は、工具の先端に磁力により吸着したまま案内筒部１２２ａを経て後側へと抜き取ればよい。その後、係合爪１２３ａを弾性変形により係合部１２３ｂから外せば、スピーカカバー１１４が扉主体３７から外れるので、収容室１１５内のスピーカ１１を後側に抜き取って、別のスピーカ１１と交換すればよい。

【０１１６】

なお、画像演出制御部１０２は予告演出パターン以外の所定の演出パターンに従って画像表示手段２４に表示される演出図柄３４ａ～３４ｃ、その他の演出画像を制御し、効果音演出制御部１０３は所定の演出パターンに従ってスピーカ１１から発生する効果音を制御し、また、発光演出制御部１０５は所定の演出パターンに従って発光手段８４，８５の発光体８４ｂ，８５ｂの発光を制御する。

【０１１７】

第１発光手段８４の発光体８４ｂが発光した場合には、その光によって発光壁８６がリング状に発光し、また、発光壁８６の前側の装飾体８８を後側から照明する。また、第２発光手段８５の発光体８５ｂが発光した場合には、外カバー８２に形成された周方向の複数箇所の光透過孔８２ｂで内カバー８１が発光する。

【０１１８】

この実施形態では、画像表示手段２４に操作指示画像３５の表示中にチャンスボタン１８を操作したときに送風演出手段１２、芳香演出手段１３Ａにより予告演出を行うようにしているが、チャンスボタン１８の操作に関係なく予告演出をするようにしてもよい。

【０１１９】

また、予告演出の場合、送風演出手段１２、芳香演出手段１３Ａによる単独の送風演出で予告するようにしてもよいし、画像表示手段２４に予告画像を表示する画像演出、スピーカ１１が特定の予告音を発する効果音演出、特定部位の発光体が発光する発光演出、発光演出手段による発光演出等、他の演出手段の何れかによる演出と組み合わせにようにしてもよい。

【０１２０】

更に、送風演出手段１２、芳香演出手段１３Ａは予告演出以外の遊技に関連する演出に利用してもよい。送風演出手段１２による送風は、演出時間に十分な余裕がある場合には、１回の連続送風でもよいし、複数回の間欠送風でもよい。複数回の間欠送風による送風演出では、所定回数毎（１回又は複数回毎に）に送風時間及び／又は送風停止時間を変えて送風するようにしてもよい。

【０１２１】

図２３は本発明の第２の実施形態を例示する。この実施形態の案内手段１２２は、案内筒部１２２ａの両端側にテーパー状の第１案内面１２２ｂと第２案内面１２２ｃとがあり、その両案内面１２２ｂ，１２２ｃ間に直円筒状の第３案内面１２２ｅが設けられている。なお、その他の構成は第１の実施形態と同様である。

【０１２２】

このように案内手段１２２を構成する案内筒部１２２ａをテーパー状に構成するに当たっては、両端にテーパー状の第１案内面１２２ｂと第２案内面１２２ｃとを配置して、中間に直円筒状の第３案内面１２２ｅを設けてもよい。また両端にテーパー状の第１案内面１２２ｂと第２案内面１２２ｂｃがあれば、案内筒部１２２ａ内への固定具１１９の挿入を容易にでき、また取り付け孔１１３ｂ、取り付けボス５１ａに対する固定具１１９の芯合わせも容易にできる。

【０１２３】

図２４は本発明の第３の実施形態を例示する。この実施形態のスピーカカバー１１４は、扉主体３７に固定されておらず、その覆い部１２１がスピーカ１１の後部に固着又は着脱自在に装着されている。スピーカカバー１１４は、マグネット１１１側を包む覆い部１２１と、この覆い部１２１の後端側から外周側に広がる鍔部１２１ｂを備え、その鍔部１２１ｂで収容室１１５の後側の開口端を塞ぐようになっている。案内手段１２２を構成す

る案内筒部１２２ａは、マグネット１１１の左右両側で鍔部１２１ｂから突出しており、その形状、構造は第１又は第２の実施形態と同様に構成されている。その他の構成は第１の実施形態と同様である。

【０１２４】

このようにスピーカカバー１１４は、スピーカ１１自体の後部側に装着してスピーカ１１と一体に取り扱えるように構成してもよい。この場合にも、そのスピーカカバー１１４の鍔部１２１ｂ等の適当箇所に、案内手段１２２、案内筒部１２２ａを設けることにより、固定具１１９を取り付け孔１１３ｂへと案内することができる。

【０１２５】

従って、案内手段１２２を設けるべき対象部材は、スピーカ１１とは別に扉主体３７側に装着されたスピーカカバー１１４等の着脱部材であるか、スピーカ１１に装着されたスピーカカバー１１４のようにスピーカ１１側の一部の構成部材であるか否かを問わず、それらの部材に案内手段１２２を設けることにより、マグネット１１１の磁界の影響を受けることなく容易にスピーカ１１を取り付けることができる。

【０１２６】

図２５は本発明の第４の実施形態を例示する。この実施形態の芳香発生源１３は、前飾り部材２２の前面部２２ａに形成された収容凹部１３４と、この収容凹部１３４内に収容された芳香剤１２６と、収容凹部１３４の開口側に着脱自在に装着された開閉蓋１３５とを備えている。開閉蓋１３５は通気孔１３５ａを有し、一端側の係合手段１３６と他端側の係止手段１３７とにより収容凹部１３４の開口側に着脱開閉自在に設けられている。

【０１２７】

係合手段１３６は収容凹部１３４の下側に形成された係合部１３６ａと、開閉蓋１３５の下側に形成され且つ係合部１３６ａに係脱自在に係合する係合突起１３６ｂとを有する。係止手段１３７は収容凹部１３４の上側に形成された係止部１３７ａと、開閉蓋１３５の上側に形成され且つ係止部１３７ａに係脱自在に係合する係止突起１３７ｂとを有する。

【０１２８】

開閉蓋１３５には通気孔１３５ａを塞ぐ密封シート１２９が粘着剤を介して剥離可能に貼着されている。なお、収容凹部１３４の開口の内周又は開閉蓋１３５の外周には、両者間の隙間を塞ぐシールを設けてもよい。他の構成は各実施形態と同様である。

【０１２９】

このように芳香発生源１３は、前飾り部材２２自体の一部を利用して収容凹部１３４を形成して、その収容凹部１３４内に芳香剤１２６を収容するようにしてもよい。この場合にも、開閉蓋１３５を開ければ、必要に応じて芳香剤１２６を容易に交換することができる。

【０１３０】

図２６は本発明の第５の実施形態を例示する。この実施形態の芳香発生源１３は、芳香剤１２６を入れた袋１２７の外周部等の所定箇所に粘着剤１２７ａが塗工されており、その粘着剤１２７ａにより袋１２７が遊技盤７の前飾り部材２２の前面部２２ａ等の所定箇所に着脱自在に貼着されている。

【０１３１】

袋１２７は例えば通気性のない裏シート１２７ｂと、芳香演出に必要な芳香が外部に出るように所定の通気性を有する表シート１２７ｃとの外周を溶着、その他の手段で接合して偏平状に構成され、裏シート１２７ｂの外周部等に粘着剤１２７ａが設けられている。他の構成は各実施形態と同様である。

【０１３２】

この芳香発生源１３は、芳香剤１２６が収容された袋１２７を遊技盤７の前飾り部材２２の前面部２２ａ等の適当箇所に貼着して使用し、袋１２７内の芳香剤１２６が切れたときには新しいものと交換する。従って、使い捨て式の芳香発生源１３として使用することができる。また袋１２７に芳香剤１２６を収容しているため、芳香発生源１３を偏平状に

構成することが可能であり、僅かのスペースを利用して芳香発生源１３を容易に配置することができる。

【０１３３】

図２７～図２９は本発明の第６の実施形態を例示する。この実施形態の芳香演出手段１３Ａは図２７に示すように、遊技盤７側に配置された芳香発生源１３と、ガラス扉８側に配置された送風演出手段１２との他に、芳香発生源１３の芳香口１３９を開閉する芳香開閉手段１４０が設けられており、送風演出制御部１４１の制御により送風演出手段１２が送風演出する間に、芳香演出制御部１４２の制御により芳香開閉手段１４０が１回又は複数回開閉するように構成されている。

【０１３４】

芳香発生源１３、芳香開閉手段１４０は図２８に示すように取り付け台１４３に設けられ、その取り付け台１４３は前飾り部材２２の内側等の適当箇所で遊技盤７の前面に装着されている。芳香発生源１３は芳香口１３９を有するカセット式のケース１２５を備え、そのケース１２５内に芳香剤１２６が充填又は収容されている。ケース１２５は取り付け台１４３の左右一対の支持部１４４，１４５間に配置され、一方の支持部１４４と他方の支持部１４５側の押圧部１４８との間で着脱自在に保持されている。

【０１３５】

一対の支持部１４４，１４５の内、芳香口１３９に対応する一方の支持部１４４には、その芳香口１３９を開閉する弁体１４６と、弁体１４６が芳香口１３９を開けたときに芳香が通る芳香通路１４７とが設けられ、他方の支持部１４５には、芳香口１３９と反対側から芳香発生源１３に当接する押圧部１４８と、この押圧部１４８を弁体１４６側に付勢するバネ１４９とが設けられている。

【０１３６】

芳香開閉手段１４０は芳香発生源１３の芳香口１３９を開閉する弁体１４６と、この弁体１４６を開方向に駆動するソレノイド１５０と、弁体１４６を閉方向に付勢するバネ１５１とを備え、ソレノイド１５０が励磁したときに弁体１４６がバネ１５１に抗して芳香口１３９を開放し、消磁したときにバネ１５１により弁体１４６が閉方向に戻って芳香口１３９を封じるようになっている。

【０１３７】

支持部１４４の芳香通路１４７は送風演出手段１２の吸い込み口６１の近傍に配置されており、送風演出手段１２の送風演出中に弁体１４６が芳香口１３９を開放したときに、送風演出手段１２が吸い込み口６１側の空気流と共に芳香発生源１３からの芳香を吸い込み易くなっている。他の構成は各実施形態と同様である。

【０１３８】

この場合には、図２９に示すように、チャンスボタン１８の操作に関連して送風演出制御部１４１の制御により送風演出手段１２が所定時間Ｔの送風演出を開始する一方、チャンスボタン１８の操作に関連して芳香演出制御部１４２の制御により芳香開閉手段１４０が芳香発生源１３の芳香口１３９を開閉する。

【０１３９】

例えば、送風演出手段１２の送風演出中に、経路開閉手段５５とは異なるタイミングで芳香開閉手段１４０が１回又は複数回開閉すると、その開放中に芳香口１３９から出た芳香が芳香通路１４７を経て送風演出手段１２の吸い込み口６１側へと流れて、芳香を含む風が遊技者側へと送風されて行く。従って、一時的に芳香を含む送風があることにより、単なる送風演出に比べて変化のある送風演出を行うことができる。

【０１４０】

また特別図柄表示手段２９の変動後に特別遊技状態が発生する信頼度の大小に応じて、送風演出中の芳香の有無、芳香の送り時間等に変化を持たせることにより、予告演出の多様化を図ることができる。例えば信頼度が高いときには芳香を含む送風演出とし、信頼度が低いときは芳香のない送風演出としてもよい。

【０１４１】

更に芳香開閉手段１４０で芳香発生源１３の芳香口１３９を開閉することにより、送風演出手段１２を芳香の送り用として兼用しているにも拘わらず、送風演出中は常に芳香を送り続ける場合に比較して芳香剤１２６の無駄な消費を防止できる。また多数の遊技機を設置する遊技ホール等でも、芳香の発生過多による弊害を極力少なくできる。

【０１４２】

図３０、図３１は本発明の第７の実施形態を例示する。この実施形態では、送風手段５３として軸流型ファン１５３が設けられ、その入口側である吸い込み口６１側に送風経路５４を開閉する経路開閉手段５５が、この経路開閉手段５５よりも後方の遊技盤７側に芳香発生源１３が夫々設けられている。

【０１４３】

軸流型ファン１５３は円筒状のファンケース１５４と、このファンケース１５４内に回転自在に配置されたプロペラ式の回転翼１５５と、この回転翼１５５を駆動する駆動モータ１５６とを備えている。ファンケース１５４は後側に吸い込み口６１を、前側に排出口６２を夫々備え、吸い込み口６１が扉主体３７の開口部３７ａと対向するように扉主体３７の前面に着脱自在に装着されている。回転翼１５５はハブ１５７の外周に周方向に複数枚あり、ハブ１５７を介して駆動モータ１５６の前後方向の駆動軸１５８に固定されている。

【０１４４】

駆動モータ１５６はファンケース１５４内の中央部に取り付け台１５９を介して固定され、また、取り付け台１５９は放射状の支持片１６０を介してファンケース１５４に固定されている。ファンケース１５４の前側には送風カバー１６１が装着され、その送風カバー１６１の前端の送風口１６１ａから遊技者側へと送風するようになっている。

【０１４５】

送風経路５４はファンケース１５４の吸い込み口６１から送風カバー１６１の送風口１６１ａに跨がって形成されている。経路開閉手段５５はファンケース１５４の吸い込み口６１側に設けられた支持案内手段１６２に沿って上下方向、その他の開閉方向に移動自在な開閉部材７１と、この開閉部材７１を閉位置Ａと開位置Ｂとの間で送風経路５４に対して出退自在に駆動する駆動源、例えばソレノイド７２とを有し、開閉部材７１により軸流型ファン１５３の吸い込み口６１側で送風経路５４を開閉するようになっている。

【０１４６】

開閉部材７１は枢軸７５により扉主体３７等の固定部材に枢支されている。ソレノイド７２は扉主体３７等の固定部材に取り付けられており、プランジャー７８が開閉部材７１に連結されている。なお、プランジャー７８と開閉部材７１との間に連動機構７３を設けてもよい。他の構成は各実施形態と略同様である。

【０１４７】

このように送風手段５３としてプロペラ式の軸流型ファン１５３を採用する場合には、その軸流型ファン１５３の吸い込み口６１側に経路開閉手段５５を配置し、その経路開閉手段５５の後側に芳香発生源１３を設けることにより、第１の実施形態と同様に芳香送風の開始と終了とを明瞭にできる。

【０１４８】

即ち、軸流型ファン１５３では経路開閉手段５５により吸い込み口６１側を閉じた状態で回転翼１５５を回転させても、単に回転翼１５５が空転するだけであって、送風はしない。そして、吸い込み口６１側を開放したときに、芳香を含む空気の送風を急激に開始する。

【０１４９】

従って、軸流型ファン１５３を運転した状態で経路開閉手段５５により送風経路５４を開閉することによって、芳香送風の開始、終了を明確に変化させることができる。このため送風演出手段１２用の送風手段５３として軸流型ファン１５３を採用することも十分に可能である。

【０１５０】

また、プロペラ式の軸流型ファン１５３は遠心型ファン５７に比較して送風時の動圧、騒音が大になる傾向にあるが、そのような問題は回転翼１５５の回転数を小さくすることにより容易に解消することができる。

【０１５１】

図３２、図３３は本発明の第８の実施形態を例示する。この実施形態では、送風演出手段１２と芳香演出手段１３Ａとが別々に設けられており、送風演出手段１２による送風演出と芳香演出手段１３Ａによる芳香演出とを別々に行えるようになっている。

【０１５２】

送風演出手段１２は第１の実施形態等と同様にガラス扉８に装着されている。芳香演出手段１３Ａは遊技盤７側に装着された芳香発生源１３と、ガラス扉８に装着された芳香送り手段１６４とを備え、芳香発生源１３と芳香送り手段１６４とが遮蔽ダクト１６５により接続されている。

【０１５３】

芳香発生源１３は芳香剤１２６を収容するケース１２５が取り付け板１６６を介して遊技盤７の前面の前飾り部材２２に着脱自在に装着されている。ケース１２５には前面の取り付け板１６６側に逆止弁１６７ａ付きの芳香口１６７が設けられ、取り付け板１６６側を除く周壁部分に逆止弁１６８ａ付きの吸気孔１６８が設けられている。逆止弁１６７ａ，１６８ａは弾性片、その他により開閉自在に構成されている。

【０１５４】

遮蔽ダクト１６５は軸流型ファン１５３の運転時に外気を導入して適度な空気流ができるように小孔等の適当な通気孔１６５ａを有し、取り付け板１６６の前面に前側に突出して設けられており、ガラス扉８を閉じたときに扉主体３７の開口部３７ａの外周側が前側から当接するようになっている。なお、遮蔽ダクト１６５は扉主体３７に弾性的に当接するように前後方向に弾性変形可能になっている。

【０１５５】

芳香送り手段１６４はファンケース１５４内に回転翼１５５と駆動モータ１５６とを備えた軸流型ファン１５３により構成され、回転翼１５５の回転により、芳香発生源１３からの芳香をガラス扉８の前側、例えば遊技者の周辺近傍へと送るようになっている。駆動モータ１５６は演出制御手段１００の芳香演出制御部１４２からの芳香演出指令により制御される。なお、軸流型ファン１５３に代替して遠心型ファンを用いてもよい。他の構成は各実施形態と同様である。

【０１５６】

この実施形態では、通常、芳香発生源１３の逆止弁１６７ａ，１６８ａは閉状態にあり、ケース１２５は外気と遮蔽状態にあるため、芳香剤１２６から発生した芳香のケース１２５外への漏れを極力抑制することができる。

【０１５７】

芳香演出制御部１４２から芳香演出指令があれば、芳香送り手段１６４の軸流型ファン１５３の回転翼１５５が回転して芳香発生源１３からの芳香を遊技者側へと送る。即ち、軸流型ファン１５３の回転翼１５５が回転すると、通気孔１６５ａを介して遮蔽ダクト１６５内に外気が吸い込まれて空気流が発生する。そのため回転翼１５５の上手側の遮蔽ダクト１６５内が負圧状態になり、芳香口１６７側の逆止弁１６７ａが開放する。そして、この逆止弁１６７ａの開放によってケース１２５内が負圧状態になり、吸気孔１６８の逆止弁１６８ａが開放する。

【０１５８】

これらの逆止弁１６７ａ，１６８ａの開放によって吸気孔１６８、ケース１２５、芳香口１６７、遮蔽ダクト１６５、軸流型ファン１５３を経て空気の流れが生じ、その空気の流れに従ってケース１２５内の芳香を遊技者側へと送ることができる。

【０１５９】

このような構成の芳香演出手段１３Ａを採用すれば、送風演出手段１２による送風演出とは別に独自の芳香演出が可能であるし、送風演出手段１２の送風演出と組み合わせた組

み合わせ演出も可能である。また芳香演出の場合には、１回芳香を送ればその残り香が生じるが、送風演出とは別に送ることにより、芳香の送り時間を短くすることも可能である。なお、芳香演出時の芳香送り手段１６４の運転は１回でもよいし、複数回でもよい。

【０１６０】

図３４、図３５は本発明の第９の実施形態を例示する。この実施形態の芳香演出手段１３Ａは、芳香発生源１３と、この芳香発生源１３からの芳香を間欠的に送るポンプ式の芳香送り手段１６４とを備えている。

【０１６１】

芳香発生源１３は逆止弁１６８ａ付きの吸気孔１６８と芳香口１６７とを有し且つ芳香剤１２６を収容するケース１２５を備え、そのケース１２５が遊技盤７の前面に着脱自在に装着されている。芳香送り手段１６４はシリンダ１７０とピストン１７１とを有するポンプ１７２と、このポンプ１７２を駆動するソレノイド（駆動手段）１７６とを備え、ガラス扉８の扉主体３７に取り付け板１７３等を介して着脱自在に取り付けられている。

【０１６２】

シリンダ１７０は逆止弁１７４ａ付きの吸気口１７４と逆止弁１７５ａ付きの送気口１７５とを有し、その吸気口１７４はガラス扉８を閉じたときにケース１２５の芳香口１６７に接続し、送気口１７５はガラス扉８の前側の適当箇所に開口している。ピストン１７１はソレノイド１７６に連結されている。なお、ポンプ１７２はシリンダ式以外の回転式、その他のものでもよい。

【０１６３】

この実施形態では、ソレノイド１７６の駆動によりポンプ１７２が往復動作をして、芳香発生源１３からの芳香を吸気口１７４を経て吸入した後、その芳香を送気口１７５から遊技者側へと送る。従って、このようにポンプ１７２とその駆動用のソレノイド１７６等によっても芳香送り手段１６４を構成することも可能である。

【０１６４】

図３６は本発明の第１０の実施形態を例示する。この実施形態の芳香演出手段１３Ａの一部を構成する芳香発生源１３が、送風手段（芳香送り手段）５３と前後に相対応して遊技盤７の裏側に配置されている。遊技盤７の裏側には、裏ケース等の裏側部材１８１が装着されており、この裏側部材１８１に芳香発生源１３が着脱自在に装着されている。芳香発生源１３は芳香剤１２６がケース１２５に収容されている。

【０１６５】

遊技盤７には、芳香発生源１３からの芳香が送風手段５３側に流れ易くなるように、芳香発生源１３と送風手段５３とに対応して切り欠き部、開口部等の連通部が１８０設けられている。また裏側部材１８１にも、送風手段５３が作動したときにケース１２５の周辺の芳香が空気と共に送風手段５３側へと流れ易くなるように、ケース１２５の裏側に対応して通孔等の通気部１８２が設けられている。他の構成は各実施形態と同様である。

【０１６６】

このように芳香発生源１３を遊技盤７の遊技領域２３の外周側に設けるに当たっては、遊技盤７の前面側で遊技領域２３の外側の何れか適当箇所に設けるのが一般的であるが、遊技盤７の裏側に設けることも可能である。即ち、ガラス扉８側の送風手段５３と芳香発生源１３との間での空気流の移動を確保できる限りは、この実施形態に例示するように、送風演出手段１２と前後に相対応して遊技盤７の裏側に芳香発生源１３を設けることも可能である。

【０１６７】

従って、芳香発生源１３は遊技盤７の前面側に限定されるものではない。また芳香発生源１３は遊技盤７の裏側部材１８１に設ける他、遊技盤７の裏面に直接設けることも可能である。

【０１６８】

以上、本発明の各実施形態について詳述したが、本発明はこの各実施形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々の変更が可能である。例えば、各実

施形態では、遊技機として弾球遊技機の一つであるパチンコ機１について例示しているが、パチンコ機１以外のアレンジボール機等の弾球遊技機は勿論のこと、スロットマシンを含む各種の遊技機においても同様に実施可能であることは云うまでもない。

【０１６９】

また芳香演出手段１３Ａを設けるに当たっては、遊技機本体に着脱自在な遊技盤７に芳香発生源１３を設けるが、その芳香発生源１３は遊技盤７の前面、裏面の何れか一方に直接又は部材を介して設ければよい。更に芳香発生源１３は遊技機本体に着脱自在な遊技盤７に、芳香送り手段１６は遊技機本体側に夫々設けるのが一般的であるが、遊技盤７側に芳香発生源１３と芳香送り手段１６４との両方を設けることも可能である。従って、遊技盤７を交換することにより芳香の種類を変更可能にする上からは、少なくとも芳香発生源１３が遊技盤７にあれば十分である。

【０１７０】

遊技機本体の前面側に送風する送風演出手段１２がある場合には、その送風演出手段１２を芳香送り手段１６４として利用してもよいが、送風演出手段１２とは別に芳香送り手段１６４を設けることも可能である。また芳香送り手段１６４はファン式の他、送風ポンプ式のものを使用してもよい。

【０１７１】

芳香発生源１３を遊技盤７側に設けるに当たっては、芳香発生源１３を遊技盤７に直接設けてもよいし、他の部材を介して間接的に設けてもよい。また芳香発生源１３は遊技盤７の後側に配置してチューブ等の導管を経て、ガラス扉８等に装着された送風演出手段１２又は芳香送り手段１６４等に導くようにしてもよい。

【０１７２】

また、実施形態では、予告演出用の送風演出手段１２、芳香演出手段１３Ａについて例示しているが、予告演出以外の各種の送風演出、芳香演出に利用可能である。更に送風演出手段１２はガラス扉８の上部右側等、遊技機本体の前面側の上部に配置して、遊技者の顔面近傍に芳香を含む風、芳香等を送るようにしているが、遊技者に対する位置は顔面以外でもよいし、送風演出手段１２、芳香演出手段１３Ａの配置箇所は、遊技者に対する風の送風部位との関係で任意に変更することが可能である。

【０１７３】

例えば、遊技者が遊技機の操作部位を操作する際に、その手に対して風を送風することも可能であり、その場合には手に対して最も効率的に送風できるように操作部位の周辺又はその近傍に送風演出手段１２を設けてもよい。

【０１７４】

送風演出手段１２、芳香演出手段１３Ａはガラス扉８の下部に配置してもよい。また芳香演出手段１３Ａは芳香発生源１３、芳香送り手段１６４の両者を前枠３の下部の支持板６側に設けてもよいし、芳香発生源１３を支持板６に、芳香送り手段１６４を前面扉９に夫々設ける等、遊技機本体の下部側に配置してもよい。従って、遊技機本体の前面側の上部は送風演出手段１２、芳香演出手段１３Ａの配置箇所の単なる一例に過ぎない。

【０１７５】

送風演出手段１２に使用する送風手段５３、芳香送り手段１６４は、シロッコファン、ターボファン等の遠心型ファン５７でもよいし、プロペラ式の軸流型ファン１５３、斜流型ファン、横流型ファン等でもよい。送風手段５３が遠心型ファン５７の場合に、その入口側に経路開閉手段５５を配置してもよい。また送風手段５３が軸流型ファン１５３の場合に、その出口側に経路開閉手段５５を配置してもよい。

【０１７６】

また、送風時の風量は、送風経路５４の開閉の違いを遊技者が容易に把握できる程度であれば十分である。送風経路５４の先端側に、送風口を有する口部材を角度変更可能に備え、遊技者が送風方向を任意に変更できるようにしてもよい。

【０１７７】

送風経路５４は略真っ直ぐでもよいし、屈曲状に構成してもよい。送風経路５４は送風

手段５３の種類、配置箇所の周辺状況等を考慮して適宜決定すればよい。経路開閉手段５５は板状の開閉部材７１を備え、その開閉部材７１を閉位置Ａと開位置Ｂとの間で送風経路５４に対して略直角方向（交差方向）に出退させるのが最も望ましいが、送風経路５４を開閉できる経路開閉手段５５であれば、その形式、構造、開閉方向等は何れでもよい。また開閉部材７１は送風経路５４に対して横方向、斜め方向に摺動させて出退させるようにしてもよい。

【０１７８】

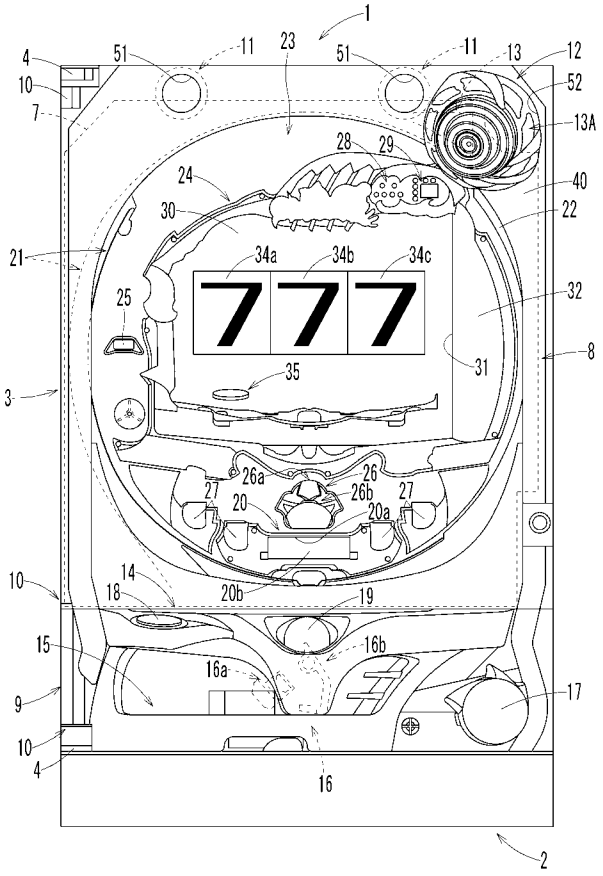
送風演出手段１２による送風演出は、喫煙中の遊技者、又はその周辺の遊技者が不快に感じたりする等、トラブル原因になる惧れもあるので、音声、画像、ランプ等による適宜報知手段により、演出開始前に送風演出を行う旨を報知するようにしてもよい。更に遊技機本体の前面等の適当箇所に選択操作手段を設けて、「送風演出・報知なし」と「送風演出・報知あり」と「送風演出なし」との何れかを遊技者が事前に選択できるようにしてもよい。

【符号の説明】

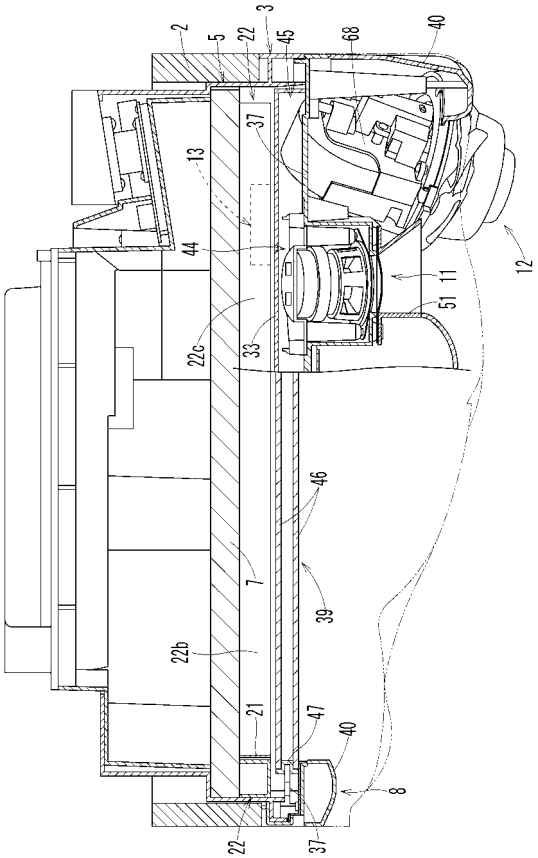
【０１７９】

３　前枠
７　遊技盤
８　開閉扉
１１　スピーカ（マグネット保有部品）
１２　送風演出手段
１３　芳香発生源
１３Ａ　芳香発生手段
１１１　マグネット
１１３　スピーカフレーム
１１３ｂ　取り付け孔
１１４　スピーカカバー（着脱部材）
１１５　収容室
１１７　取り付け部
１１９　固定具
１２２　案内手段
１４０　開閉手段
１６４　芳香送り手段

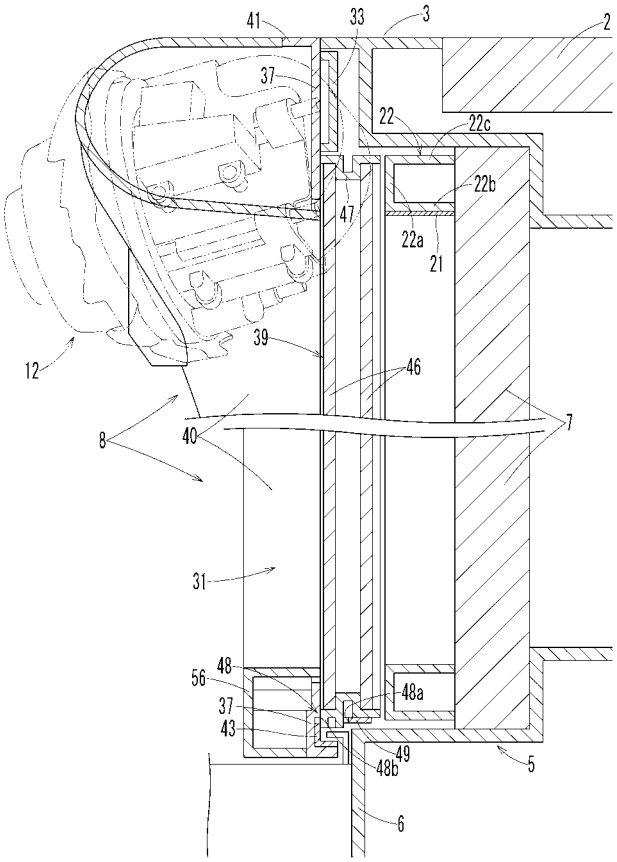
【図１】


1
4
51
11
23
51
11
13
12
10
52
7
13A
28
29
24
40
30
22
21
34a
34b
34c
777
25
32
31
8
3
35
26a
26
26b
27
27
20
20a
10
14
18
20b
19
15
16b
16a
17
9
10
4
16
2

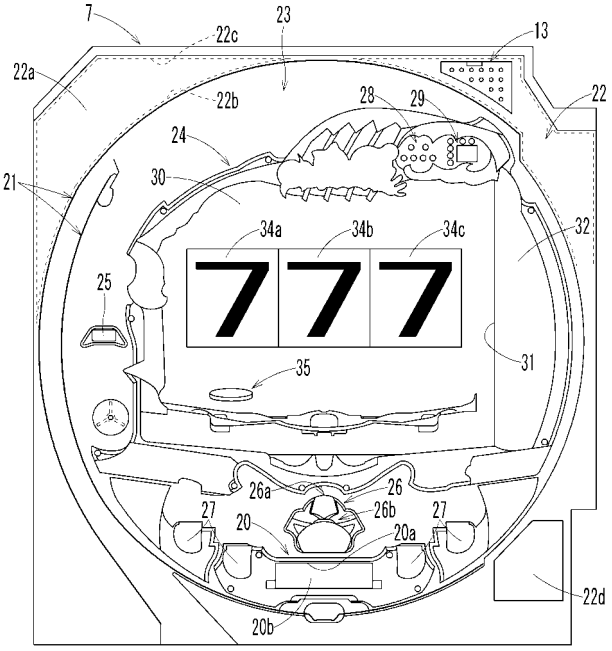
【図２】


2
5
22
3
45
68
40
37
13
44
12
51
11
22c
33
46
7
39
22b
21
47
40
8
22
37

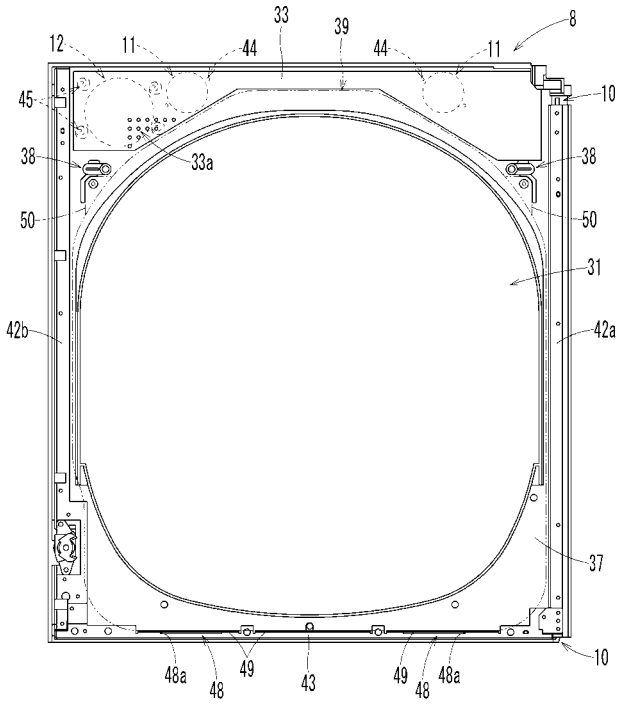
【図３】


41
33
3
2
37
22
22c
22b
47
22a
21
39
46
12
8
40
7
31
48
56
48a
37
43
49
48b
5
6

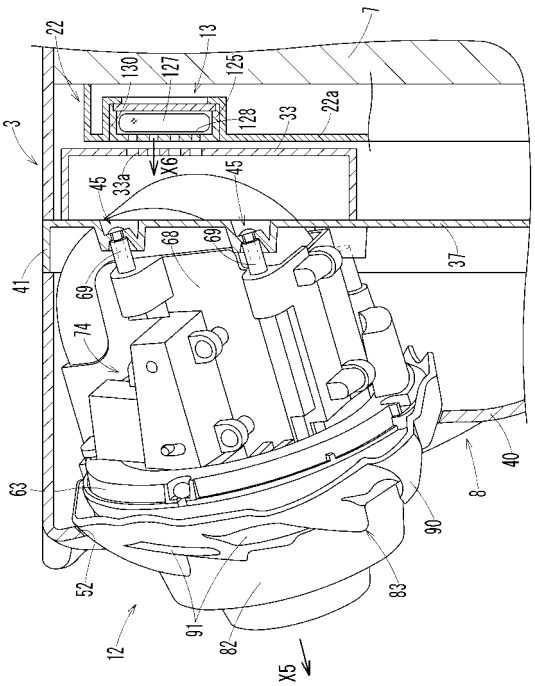
【図４】


7
22c
23
13
22a
22b
28
29
22
24
21
30
34a
34b
34c
32
777
25
31
35
26a
26
26b
27
27
20
20a
22d
20b

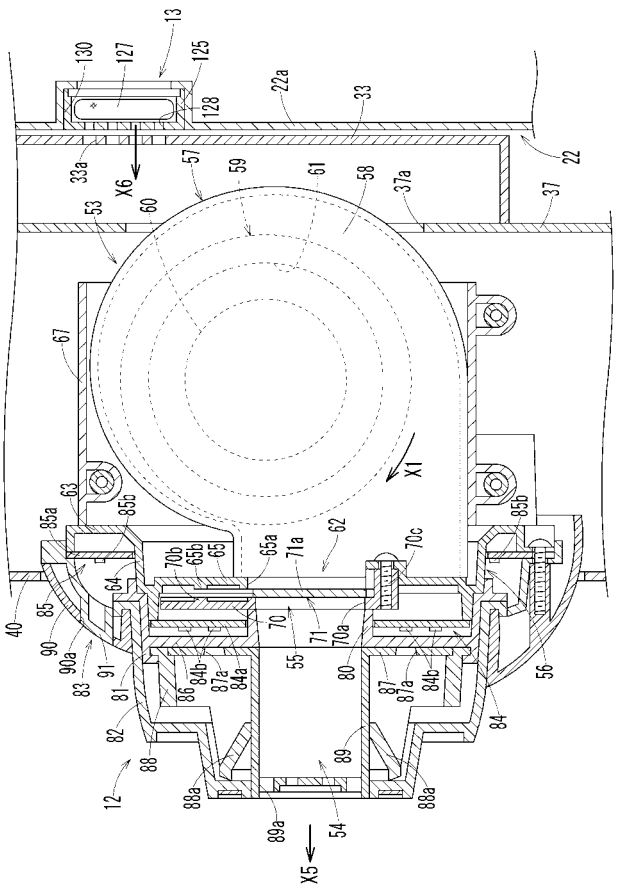
【図５】



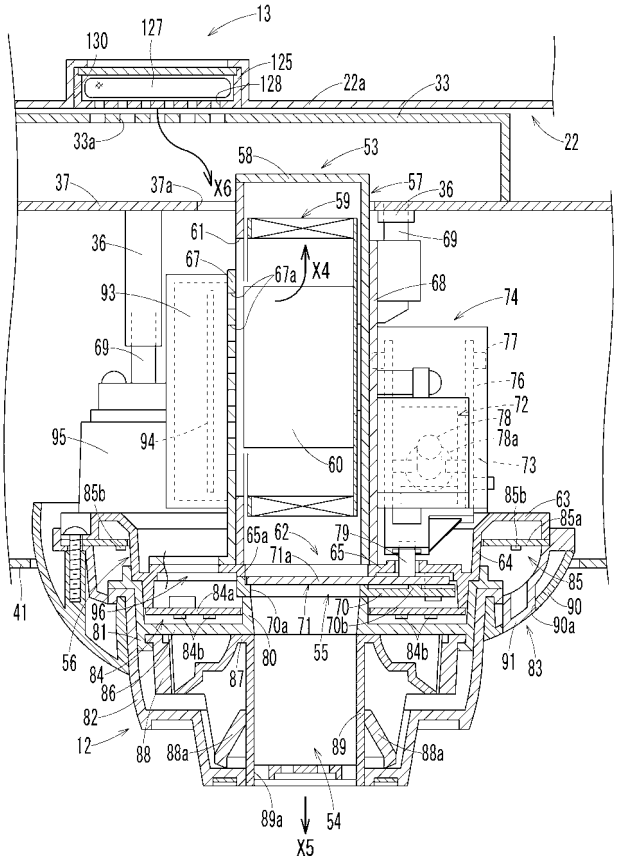
【図６】



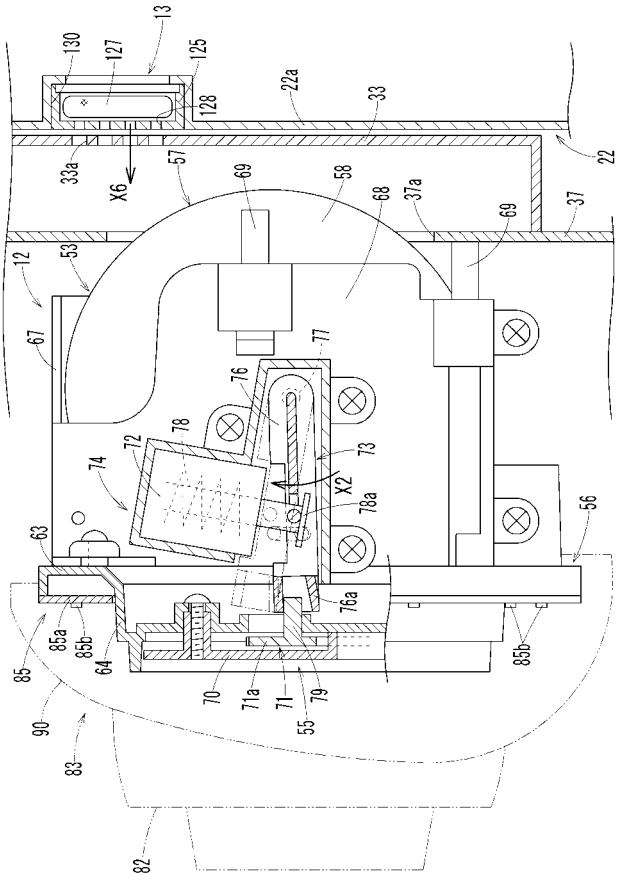
【図７】



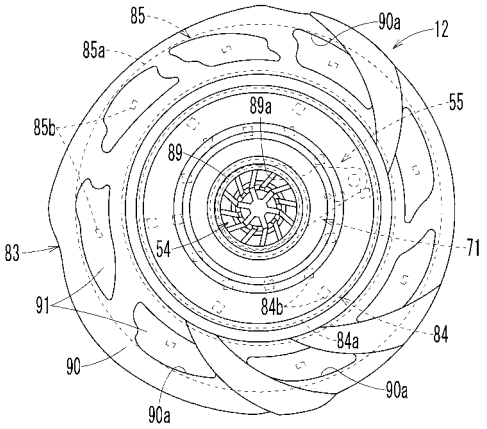
【図８】



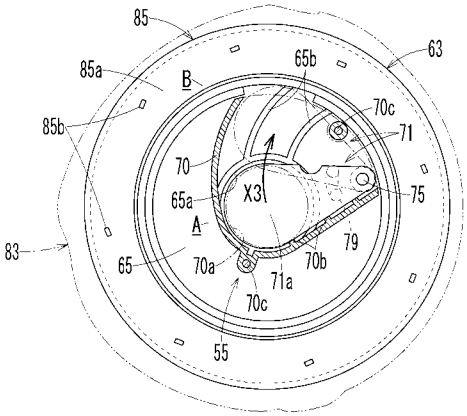
【図９】



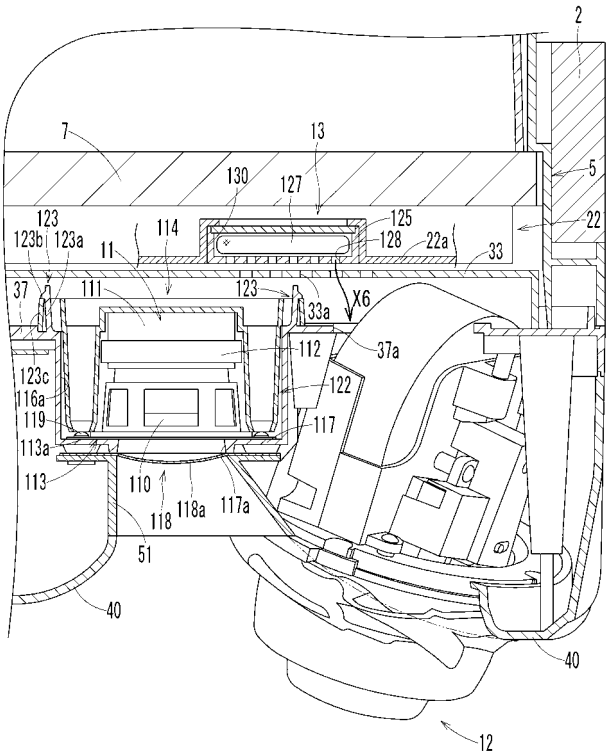
【図１０】



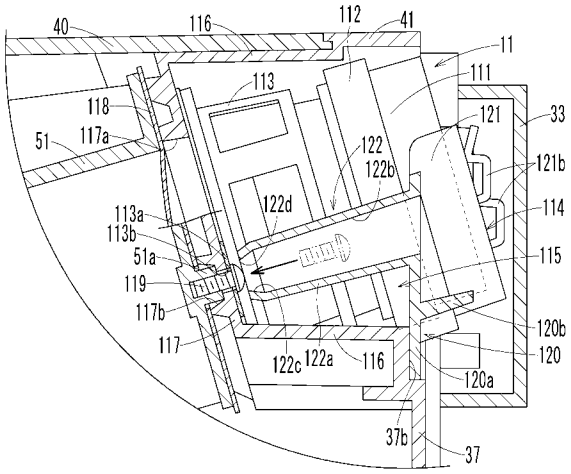
【図１１】



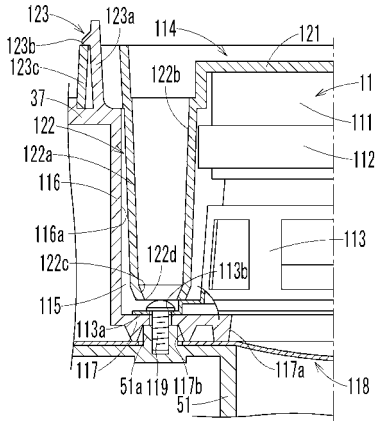
【図１２】



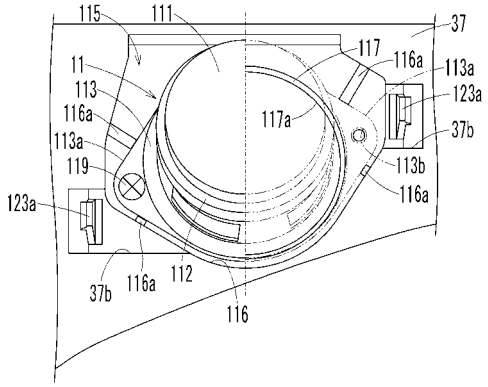
【図１３】



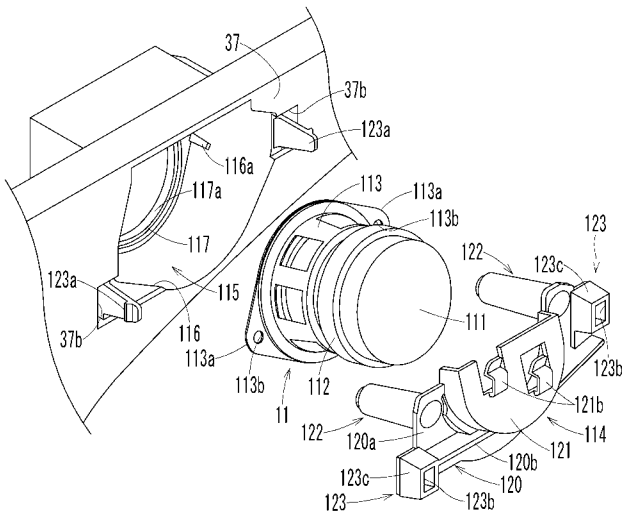
【図１４】



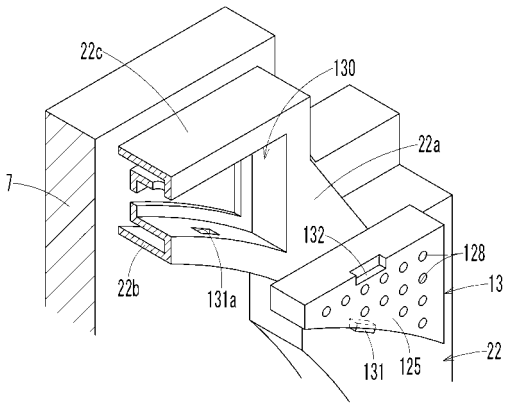
【図１５】



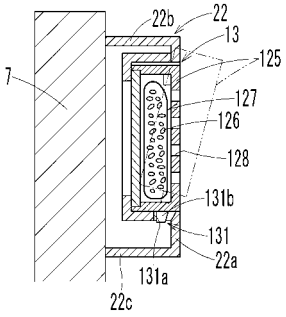
【図１６】



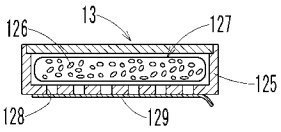
【図１７】



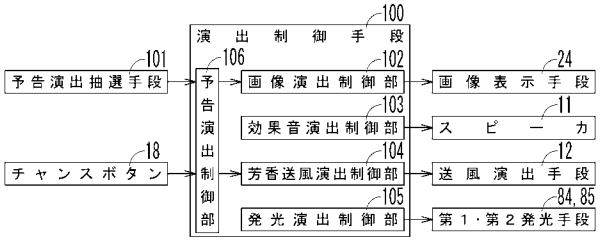
【図１８】



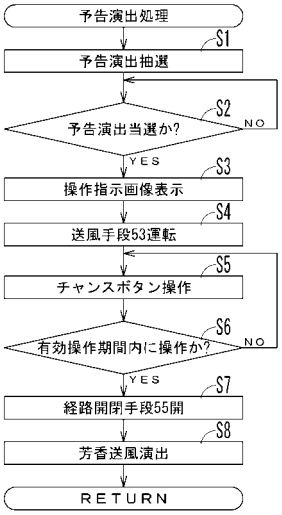
【図１９】



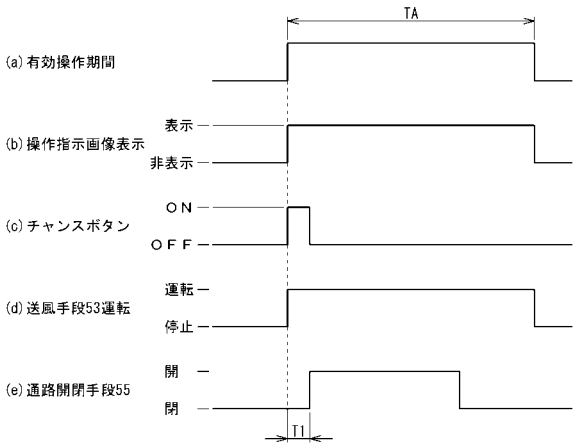
【図２０】



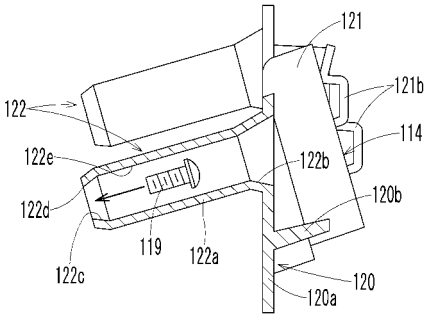
【図２１】



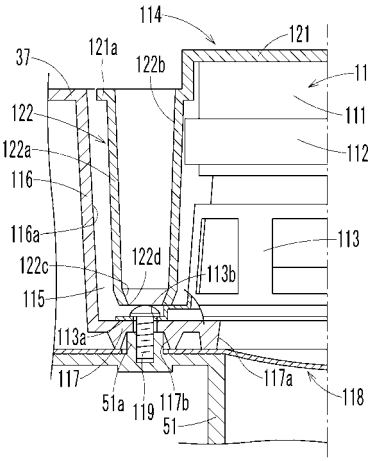
【図２２】



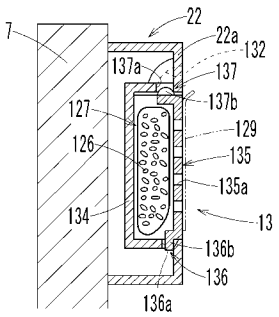
【図２３】



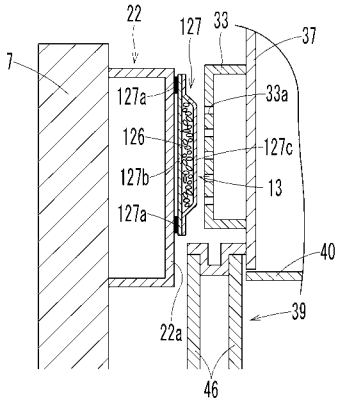
【図２４】



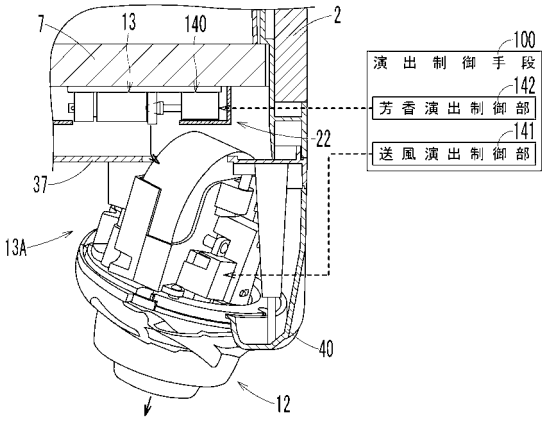
【図２５】



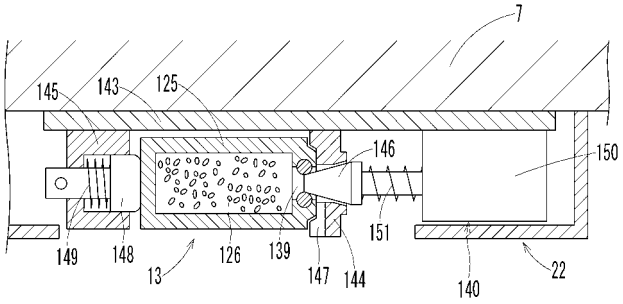
【図２６】



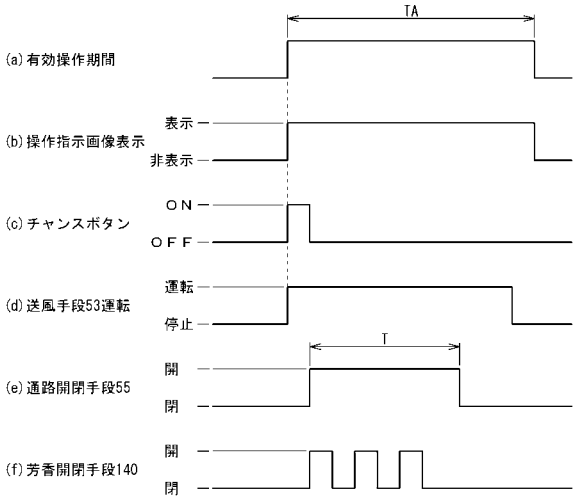
【図２７】



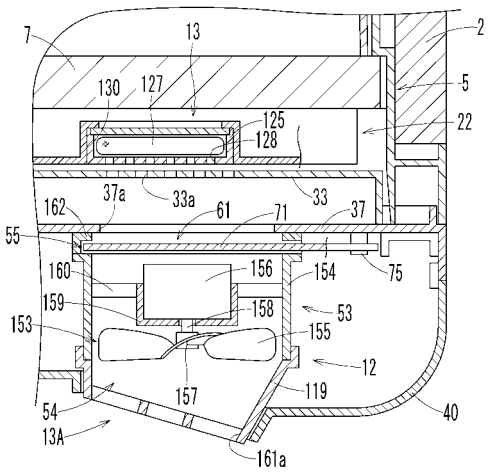
【図２８】



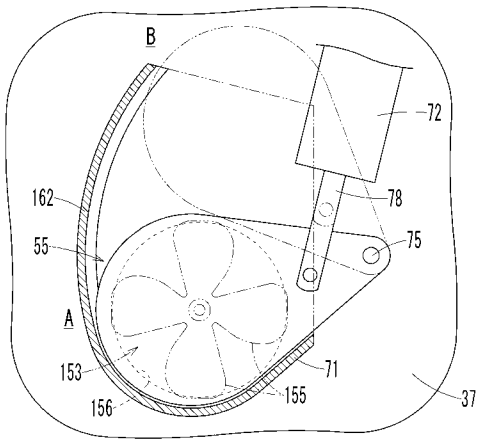
【図２９】



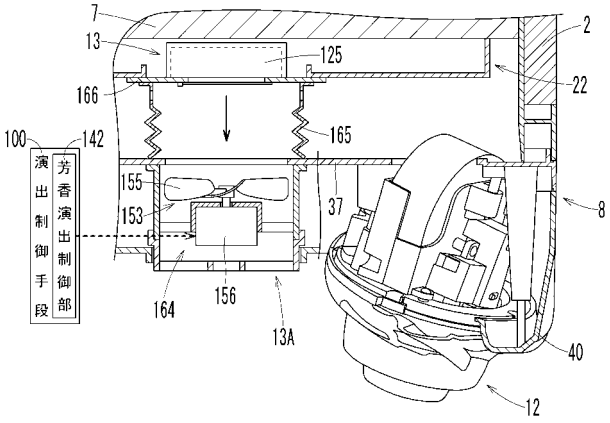
【図３０】



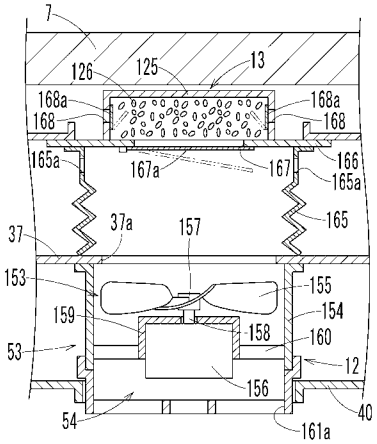
【図３１】



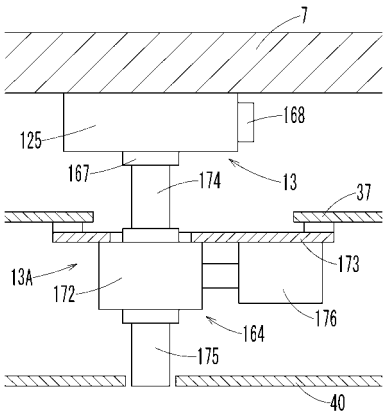
【図３２】



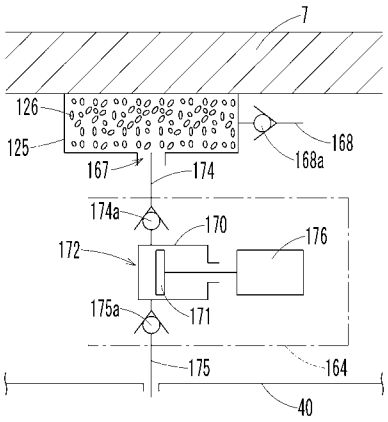
【図３３】



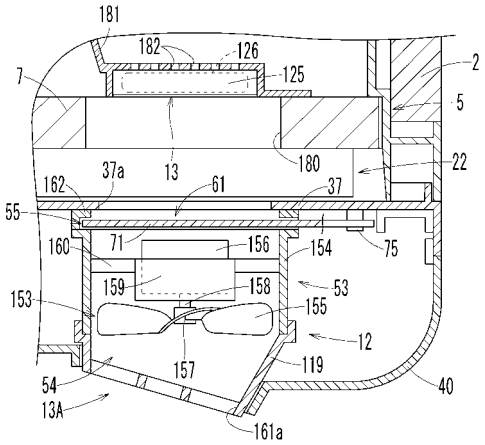
【図３４】



【図３５】


7
126
125
167
168
168a
174
174a
170
172
176
175a
171
175
164
40

【図３６】


181
182
126
125
7
2
5
22
180
13
37a
61
37
162
55
160
71
156
154
75
159
158
53
153
155
12
157
119
54
13A
161a
40